

「指導と評価の一体化」に向けたハンドブック

小・中学校の学習評価に関する参考資料【岩手県版】

～平成 29 年改訂学習指導要領を踏まえて～

国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を基に、岩手県教育委員会で学習評価に係る概要版を作成しました。この一冊があれば、小・中学校の全ての教科等の学習評価の考え方やポイントが分かります。

令和3年3月



岩手県教育委員会



目次

はじめに

I 学習評価の基本的な考え方 2

学習評価の意義	2
評価の観点の整理	2
各教科における評価の基本構造	3
学習評価の基本的な流れ	4

II 小学校 6

国語	6
社会	8
算数	10
理科	12
生活	14
音楽	16
図画工作	18
家庭	20
体育	22
外国語	24
総合的な学習の時間	26
特別活動	28

III 中学校 30

国語	30
社会	32
数学	34
理科	36
音楽	38
美術	40
保健体育	42
技術・家庭【技術分野】	44
技術・家庭【家庭分野】	46
外国語	48
総合的な学習の時間	50
特別活動	52

編集者一覧

はじめに

平成 29 年 3 月に告示された学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力，判断力，表現力等」、「学びに向かう力，人間性等」）で整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確化されました。このことにより、教師が「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されます。「指導と評価の一体化」という文言が端的に示しているように、学習評価を考えることは学習指導（授業）を考えることであり、まさに一体で進めていくものでもあります。主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に当たっては、「指導と評価の一体化」の実現が極めて重要となってきます。

このことを受け、国立教育政策研究所では、令和 2 年 3 月に、各教科等における学習評価の基本的な考え方や評価規準の作成及び評価の実施等について解説した『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を作成しました。

本県では、本来であれば、令和 2 年度から地区別小・中学校教育課程協議会を開催し、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて、各教科等における学習評価について詳しく説明する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和 2 年度は本協議会の開催を中止しました。

そこで、このたび、小・中学校の各教科等における学習評価の基本的な考え方や評価規準の作成及び評価の実施等についての概要版として、岩手県の参考資料である『指導と評価の一体化』に向けたハンドブック」を作成し、各学校で御活用いただけるよう配布することとしました。本ハンドブックは、小・中学校の全教科等（ただし、道徳科を除く。P.5 参照）の学習評価のポイントを一冊に凝縮する形で構成しました。

各学校におかれましては、平成 29 年改訂学習指導要領に基づいた「指導と評価の一体化」の実現に向けて、教職員全員で各教科等の学習評価について共通理解を図るツールとして、本ハンドブックを校内研等で有効活用していただき、子供たちに資質・能力を育む授業改善の一助として役立てていただきますことを心から期待しています。

令和 3 年 3 月 岩手県教育委員会

学習評価の基本的な考え方

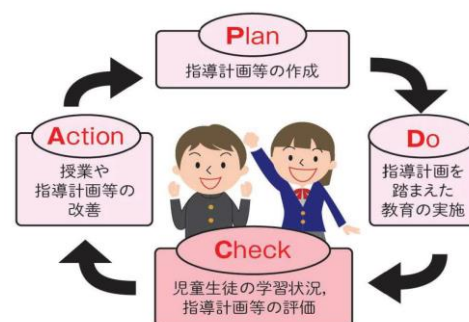
1 学習評価の意義

学習評価は、学校における教育活動に関して、児童生徒の学習状況を評価するものです。児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

各教科等の指導に当たっては、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持った形で学習評価の充実を図る「指導と評価の一体化」を重視し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「子供たちにどういった力が身に付いたか」を的確に捉えることが大切になります。

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

学校では、児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善等に生かしています。このように、「学習指導」と「学習評価」は、学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切です。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業を育成していく上で、学習評価は重要な役割を担っています。

学習評価の改善の基本的な方向性

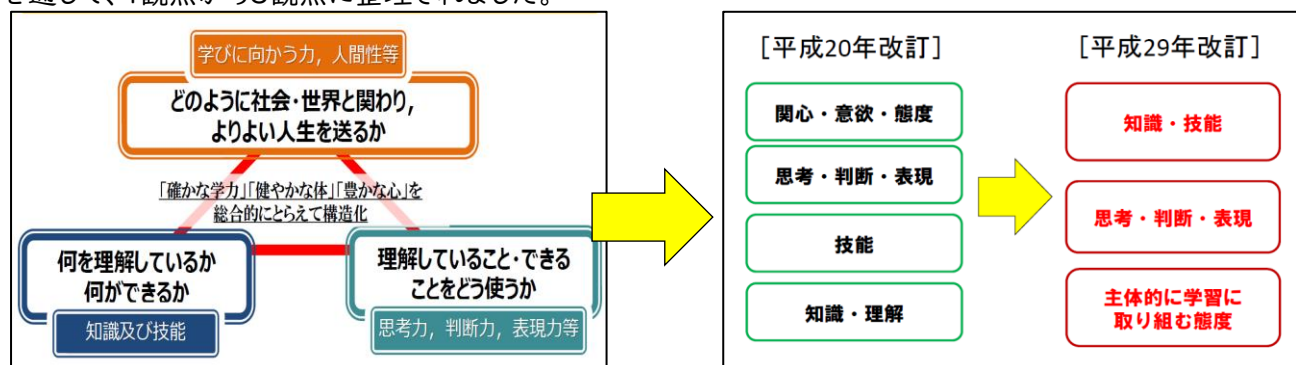
- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



2 評価の観点の整理

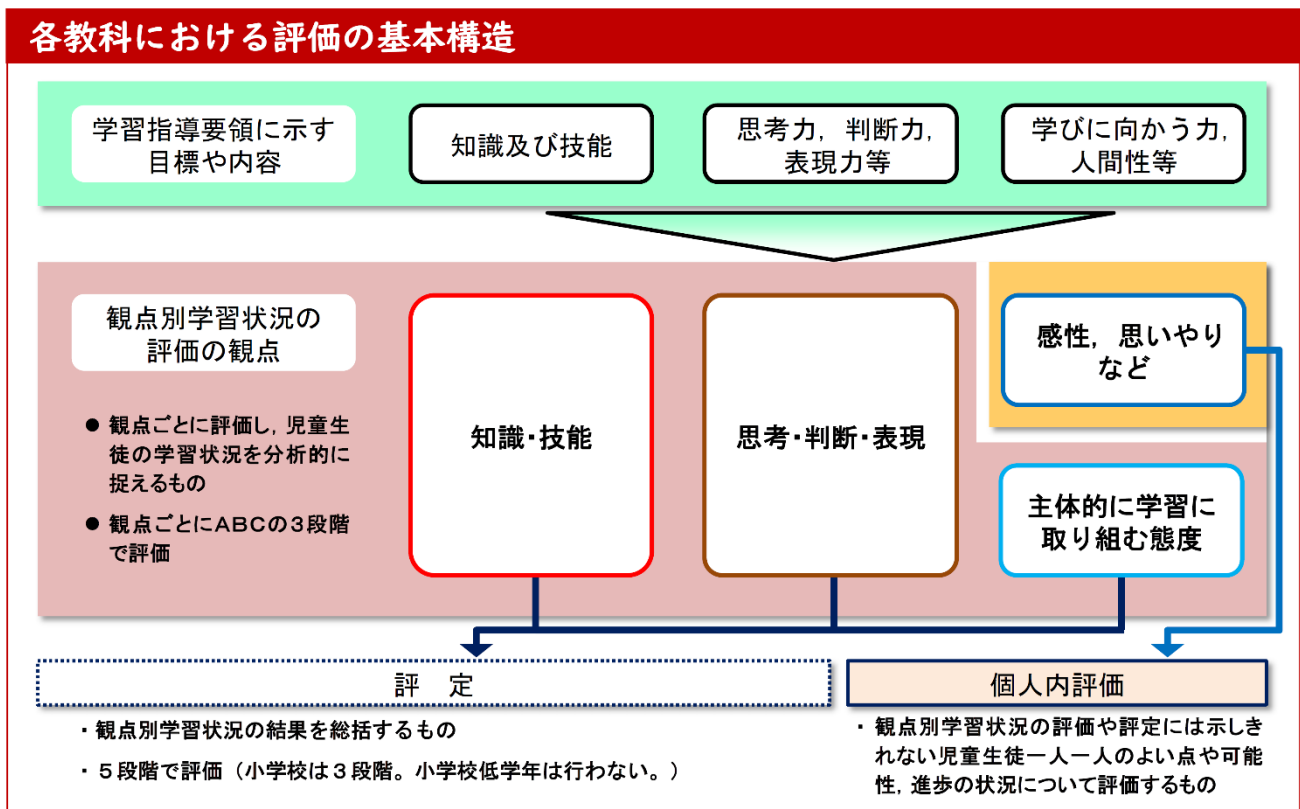
平成29年改訂学習指導要領においては、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の三つの柱で再整理しています。

観点別学習状況の評価については、こうした目標や内容の再整理を踏まえて、小・中・高等学校の各教科等を通じて、4観点から3観点到に整理されました。



3 各教科における評価の基本構造

各教科における評価の基本構造を図示化すると、以下のようになります。



<参考資料>「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)」文部科学省・国立教育政策研究所研究開発センター
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

◇「知識・技能」の評価

「知識・技能」では、各教科等における学習の過程を通じた「知識及び技能」の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的「知識及び技能」と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

◇「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」では、各教科等の「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な「思考力, 判断力, 表現力等」を身に付けているかどうかを評価します。

◇「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」では、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力, 判断力, 表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。

「学びに向かう力, 人間性等」には、

- ① 「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ② 観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



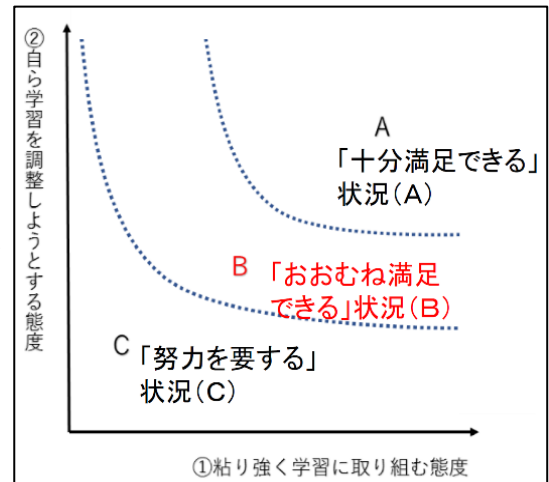
「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

「主体的に学習に取り組む態度」は、

- ① 「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
 - ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
- という二つの側面を評価することが求められます。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



こんなことで評価をしてはいませんでしたか？

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。

これまでの「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基いたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものなのです。



4 学習評価の基本的な流れ

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」

平成29年改訂学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が三つに整理され、全ての教科等の「目標」、「内容」もこの三つの柱で整理されています。

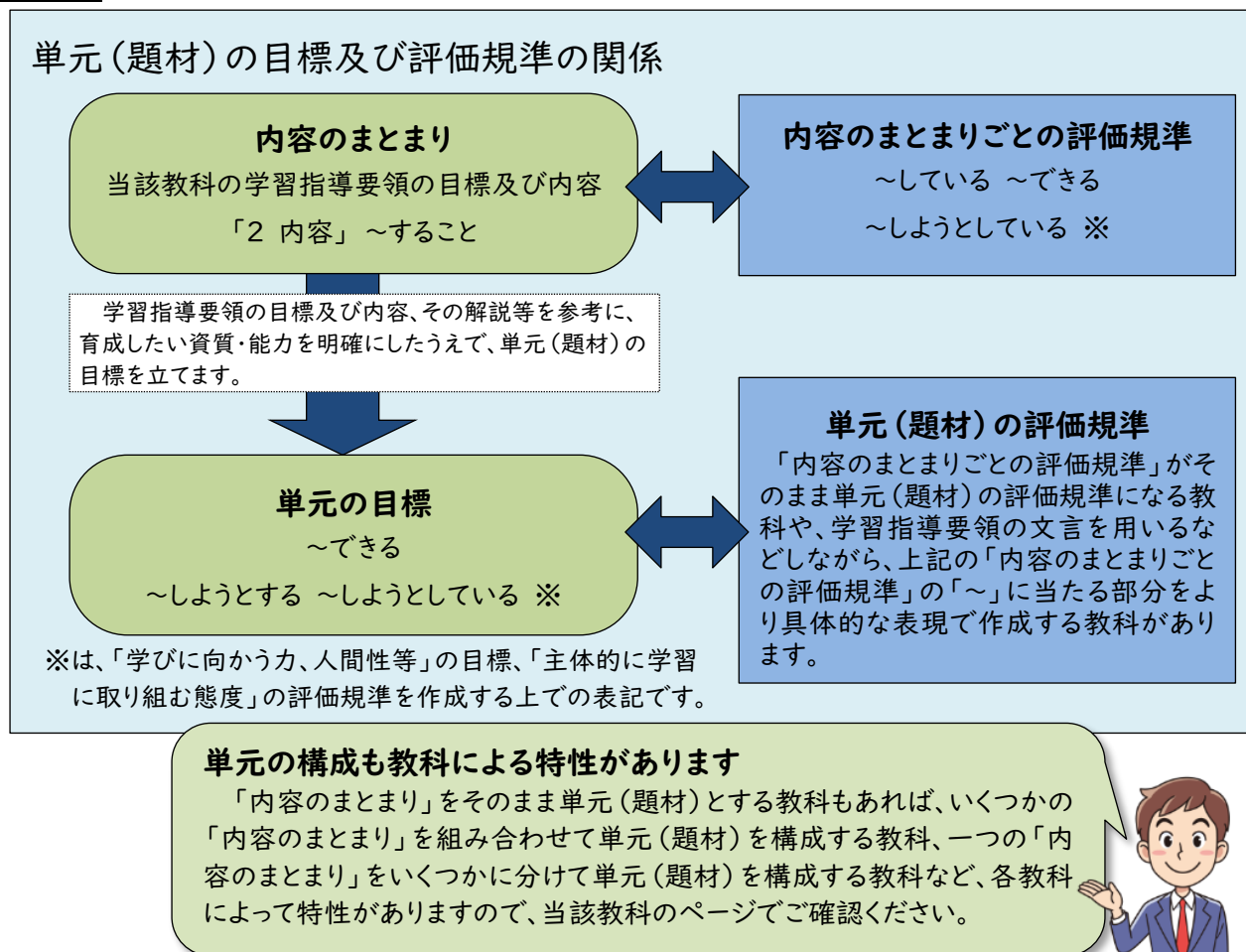
評価規準の作成に当たっては、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要があります。「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものです。基本的に、各教科等は「内容のまとまりごと」ごとに育成を目指す資質・能力が示されていますので、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものとなっています。

学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、児童生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したものを、「内容のまとまりごとの評価規準」といいます。

各教科等の学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」(1)に「単元(題材)などの内容や時間のまとまり」という記載がありますが、その「内容や時間のまとまり」と、ここでの「内容のまとまり」は同義ではありませんので注意が必要です!

(2) 単元(題材)の評価規準の作成

各学校においては、学習指導要領に基づき、育成を目指す資質・能力を明確にして「単元(題材)」を構成します。その上で、学習指導要領の目標や内容や学習指導要領解説等と「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえて、「単元の評価規準」を作成します。単元(題材)の「目標」や「評価規準」の設定は、教育課程を編成する主体である各学校が、学習指導要領に基づきつつ児童生徒や学校、地域の実情に応じて行うことが大前提となります。



(3) 評価の計画を立てることの重要性

学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠です。

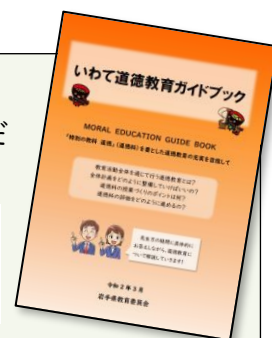
その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取るようになります。そのためは、「いつ」、「どのような方法で」、評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが重要です。

各教科等の単元(題材)において、具体的にどのように評価の計画を立てていくかについては、各教科等のページの「指導と評価の計画」を確認してください。

なお、「特別の教科 道徳(道徳科)」の評価の考え方や進め方は、県教育委員会で作成した「いわて道徳教育ガイドブック」に詳しく掲載しておりますので、御参照ください。

[＜岩手県教育委員会ホームページ＞](https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006363/1028251.html)

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006363/1028251.html>



小学校国語

指導のポイント

単元で取り上げる指導事項に基づいて、単元の目標を設定し、その目標を実現するために適した言語活動を位置付け、課題解決の過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の記述または発言があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動を通じた具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

1 国語科における「内容のまとまりごとの評価規準」

学習指導要領の目標や内容を踏まえ、以下のように「内容のまとまりごとの評価規準」を設定します。国語科においては、基本的に「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

知識・技能

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成します。

思考・判断・表現

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成します。
評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において、」と明記します。

POINT

「知識・技能」と「思考・判断・表現」のどちらの観点においても、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもあります。



主体的に学習に取り組む態度

下記の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習を調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点において重点とする内容(特に粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

第3学年及び第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」

単元に位置付ける言語活動: 齋藤隆介作品を読んで、登場人物の魅力を紹介する活動(C(2)イ)

評価規準の例

進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、
①粘り強さ ③他の2観点において重点とする内容
学習課題に沿って、登場人物の魅力を紹介している。
②自らの学習を調整 ④当該単元の具体的な言語活動

2 単元の評価規準の作成の手順

国語科においては、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成していきます。まずは、本単元で取り上げる指導事項を確認することからはじめましょう。

STEP1

単元で取り上げる指導事項の確認

STEP1

年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。

STEP2

単元の目標と言語活動の設定

STEP2

「単元の目標」の設定について

○〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力〕の目標は、基本的に、指導事項の文末を「～ができる。」として示します。

○「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、学年の目標の「言葉がもつよさ～伝え合おうとする。」までを示します。

「言語活動」の設定について

○単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考に具体化します。

言語活動を通して指導するのが国語科の目標であり、単元を構成する上での大原則です。

STEP3

単元の評価規準の設定

STEP4

単元の指導と評価の計画の決定

STEP5

評価の実際と手立ての構想

3 単元における指導と評価の例

事例 第6学年「C 読むこと」(文学的な文章)
単元名 読書座談会を通して命について考えよう(海の命)

□単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能](2)イ
- (2) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)イ
- (3) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)エ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力,人間性等」

□単元に位置付ける言語活動

「いのち」シリーズの課題について考えをまとめ、読書座談会をする。 関連:[思考力,判断力,表現力等]C(2)イ

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	①積極的に人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って話し合おうとしている。

STEP 3
前ページの作成の仕方を参考に、単元の評価規準を作成します。

□指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1 2	○「いのち」シリーズの読書座談会をするという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	
3 4 5	○「海の命」を読み、読書座談会の課題について話し合う。 なぜ、太一は瀬の主にもり打つことをやめたのだろう ○課題を解決するために、「太一」を中心とした人物相互の関係を人物相関図にまとめる。	[知識・技能]ワークシート ・登場人物の描写を、線や記号等で結び付けて意味付けているか確認する。 [思考・判断・表現①]ワークシート ・「太一」を中心とした相互関係を、描写を結び付けながら捉えているか確認する。
6 7 8	○「海の命」の課題について、自分の考えをまとめ、「海の命」の読書座談会を開く。 ○「海の命」の課題について、自分の考えを再度整理する。	[思考・判断・表現②]ワークシート ・「海の命」と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けて考えをまとめているか確認する。
9 10	○選んだ作品について、人物相関図をまとめ、課題について考える。 ○「いのち」シリーズの読書座談会を開き、「命」について考えたことをまとめる。	[主体的に学習に取り組む態度]観察 ・課題に沿って何度も読み返しなが、人物や「いのち」の意味を明らかにしようとしているか確認する。

STEP 4
各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

POINT
○ここでは、評価する時間と評価方法、そして、「おおむね満足できる」状況(B)の例を示しています。
○評価計画に当たっては、どの時間に何を評価するかを整理しましょう。必ずしも毎時間の評価を記録に残すわけではありませんので、内容や時間のまとまりで計画することが大切です。



□実際の学習評価例

【思考・判断・表現②】については、児童が「海の命」と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けている姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、ワークシートの記述から評価することとした。



Fさん 太一は、瀬の主と向き合いながら、この大魚を打つことが本当に正しいことなのかどうか、ものすごく迷ったのだと思う。このとき、与吉じいさが話していた「千びきにーびきていいんだ。」という言葉思い出したのかもしれない。この瀬の主も「海にいきる命」の一つであることに気付いたから、もりを打つことをやめたのだと思う。

太一に強い影響を与えた、父と与吉じいさの描写(行動や会話など)と結び付けて、「海の命」について考えている。
このことから、「『海の命』と太一に影響を与えた人物の描写とを結び付けて考えをまとめている」と捉え、「おおむね満足できる」状況(B)とした。



Kさん 太一は、父のかたきである瀬の主と向き合いながら、このクエをうたなければ一人前の漁師になれないと自分に言い聞かせていたのだと思う。そのとき、ふと太一は、この瀬の主を父と思うことにしたのではないか。そうすることで、「海の命」に思えたのだ。だから、太一はもりを打つのをやめたのだと思う。

「海の命」に触れてはいるが、これまでの父や与吉じいさ、母などの描写と結び付けて考えをまとめるまでに至っていないことから、「努力を要する」状況(C)とした。
そこで、再度、人物相関図を振り返るようになり、「太一がクエを打ちたくない理由」と結び付け描写を見付けるよう助言した。

STEP 5
それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、具体的な児童の姿を想定します。

POINT
○児童の「おおむね満足できる」状況(B)を想定して、あらかじめ教師が書いてみるのが大切です。そうすることで、指導と評価のポイントが明確になります。
○「努力を要する」状況(C)となってしまう児童には、具体的な支援が必要です。どのようなつまずきが考えられるかを想定して、支援の方策を計画しておきましょう。



小学校社会

指導のポイント

単元を見通した授業の構想

単元を見通して、社会的な見方・考え方を働かせながら、「見通しと振り返り」を大切にしながら問題解決的な学習を展開します。

評価のポイント

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、児童一人ひとりの学習状況を把握することが大切です。教師はそのうえで、児童を支援します。

1 社会科における内容のまとめ

小学校社会科では、「内容のまとめ」をそのまま「単元」と捉えることができます。

第3学年

- (1)身近な地域や市区町村の様子
- (2)地域に見られる生産や販売の仕事
- (3)地域の安全を守る働き
- (4)市の様子の移り変わり

第4学年

- (1)都道府県の様子
- (2)人々の健康や生活環境を支える事業
- (3)自然災害から人々を守る活動
- (4)県内の伝統や文化、先人の働き
- (5)県内の特色ある地域の様子

第5学年

- (1)我が国の国土の様子と国民生活
- (2)我が国の農業や水産業における食料生産
- (3)我が国の工業生産
- (4)我が国の情報産業
- (5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関わり

第6学年

- (1)我が国の政治の働き
- (2)我が国の歴史上の主な事象
- (3)グローバル化する世界と日本の役割

2 3観点で評価する上での留意点

知識・技能

学習問題の解決に向け、①必要な情報を集め、読み取り、社会的な事象の様子について具体的に理解しているか、また、②調べた内容を文などにまとめ、社会的な事象の特色や意味を理解しているか、という学習状況を捉え、評価すること。

思考・判断・表現

社会的な事象に着目して、①問いを見だし、社会的な事象の様子について考え表現しているか、また、②比較・関連付け、総合などとして社会的な事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか等の学習状況を捉え、評価すること。

主体的に学習に取り組む態度

社会的な事象について、①予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、また、②よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているかという学習状況を捉え、評価すること。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定

次の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行うとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

第3学年「事故や事件から人々の安全を守る」

単元の評価規準(例)	<p>①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして(II)、学習問題を追究し、解決しようとしている(I)。</p> <p>②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。※単元により①のみの場合も</p>
------------	--

POINT

【単元の評価規準②について】

○選択・判断したり、発展について考えたりする内容に関連する単元で設定します。例えば、第4学年の「健康なくらしとまちづくり」や、第5学年の「未来を支える食料生産」などが挙げられます。



4 単元及び本時における学習評価の進め方

□ 単元における指導と評価の計画

1 努力を要する状況の児童への支援
資料からの必要な情報の読み取りや、社会的事象の意味の理解等の学習状況を見取り、十分ではない状況にある児童には、支援を行うことが大切です。

2 記録に残す評価場面の設定
「思考・判断・表現」であれば、社会的事象を関連付けて考える場面を記録する等、各観点で児童の姿が最も見取り易い時間に評価場면을位置付けます。

(例) 第3学年「地域の安全を守る働き」 ◇単元名「事故や事件から人々の安全を守る」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 警察署などの活動について、見学・調査したり資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 【調べてわかる】 ② 調べたことを図表などにまとめ、警察署などは、地域の安全を守るために、関係機関や地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解している。 【考えてわかる】	① 警察署などの施設・設備、備えや対応などに着目して問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。 【問いを見い出す】 ② 関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして警察署などの関係機関の関連を考えたり、従事する人々と地域の人々の生活を関連付けたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。 【考えたり、選択・判断したりする】	① 事故や事件から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 【主体的な問題解決】 ② 学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。 【よりよい社会を考えようとする】

◇ 指導と評価の計画(全8時間) ※第3時～第5時略

時	ねらい	重点	記録	評価方法と【評価規準】
1	火災の学習を振り返り、事故や事件から地域の安全を守るための働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようになる。	思 態		【思-①】(ノート、発言) ・「安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して問いを見いだししているか」を評価する。 【態-①】(発言、ノート) ・「消防の単元の追究過程を振り返り、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
2	警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。	知	1	【知-①】(見学カード、ノート) ・「警察署を見学・調査したり資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、警察の諸活動を理解しているか」を評価する。
6	事故や事件から安全を守る人々の働きについてまとめることができるようにする。 本時	知	0	【知-②】(ノート) ・「調べたことを図表などにまとめ、警察署は、地域の安全を守るために関係機関や地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解しているか」を評価する。
7	消防と警察を比べ、安全を守る仕事についてまとめることができるようにすると共に、二つの単元の学習を振り返り、さらに調べるべきことを見いだすことができるようにする。	思 態	2	【思-②】(発言、ノート) ・「消防と警察の各関係機関の働きを比較・分類したりして、関連を考えたり、関係機関と地域の人々の生活を関連付け、まちの安全を守る仕事に従事する人々に共通する働きを考えたりして表現しているか」を評価する。 【態-①】(発言、ノート) ・「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことを見いだし、見通しをもって追究しようとしているか」を評価する。
8	地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとする態度を養う。	態	0	【態-②】(ノート等) ・「学習したことを基に安全を守るためにできることを考えようとしているか」を評価する。

POINT
【評価を指導に生かす】
○資料の読み取りや見学・調査、表現すること等への困難さがある場合は、見学により分かったことを全体で確かめたり、板書やノート等を基に学習を想起させたりする等が考えられます。

※他の場面においても、児童の学習状況を想定し、適切な支援を行う。

POINT
【評価を記録に残す】
○警察や関係機関の資料、前単元(消防)で扱った資料等を用意し、それぞれの活動を関連付ける場面を設定し、児童の特徴等を書き留める等、児童の学習状況を記録します。

POINT
【具体的手立ての設定】
○「おおむね満足できる状況」(B)を想定し、「努力を要する状況」(C)への手立てを具体的に設定しておくことが大切です。

□ 本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

評価規準	期待される記述例
事故や事件から安全を守る人々の働きについて、(1)関係機関の相互連携、(2)緊急時の体制、(3)関係機関と地域の人々との協力の視点に触れながら、適切に記述している。 【知識・技能②】	警察の人たちは、(1)通信指令室を中心として消防署やガス会社などにつながり、(2)24時間いつでも出動できるように準備を整えている。また、(3)交番や駐在所につとめる警察官もいて、見守り隊の方と協力してパトロールをしたり、地域の方と一緒に交通安全運動などを行ったりしながら、私たちの安全な生活を守っている。



小学校算数

指導のポイント

「どのような数学的な見方・考え方を働かせて」、「どのような数学的活動を通して」、「どのような数学的に考える資質・能力を育成するのか」を明確にして単元の指導と評価の計画を構想しましょう。

目標の「3M」

評価のポイント

「指導に生かす評価」では、「おおむね満足できる」状況を具体的に想定し、「努力を要する」状況と考えられる生徒に対する指導の手立てを計画しておくことが重要です。「記録に残す評価」では、これらの指導を積み重ねた結果、児童の資質・能力がどう高まったのを見取ることができる評価方法の工夫が重要です。

評価は次の指導へのステップ

1 観点別評価の留意事項

知識・技能

数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解しているかどうかについて評価します。また、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けているかどうかについて評価します。

知識は、単元を通して繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、技能も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていくことから、「記録に残す評価」の機会を単元末に設定することが考えられます。しかし、単元末のペーパーテストのみで評価するのではなく、毎時間の机間指導などにおいて、ノートの記述内容や適用問題等から児童の学習状況を把握し、適切な支援を行っていくことが大切です。

思考・判断・表現

日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けているかどうかについて評価します。

これらの力は、授業中の問題発見や解決の過程において、児童が発揮するものです。授業中の発言や話し合いなどの活動の様子と、個人解決時の問題解決の様子、適用問題や活用問題の解決の様子や学習感想などの振り返りといったノート等の記述内容から評価の情報を収集し、「おおむね満足できる」状況であるかを見取ることが重要です。

また、新たな問いに気付いたり、発展的・統合的に見て数学的なよさに気付いたりするなどの「十分満足できる」状況は、児童の発言といった形で表出されることが多いことから、授業中の問題発見や解決の時間において、「記録に残す評価」の機会を設定することが考えられます。

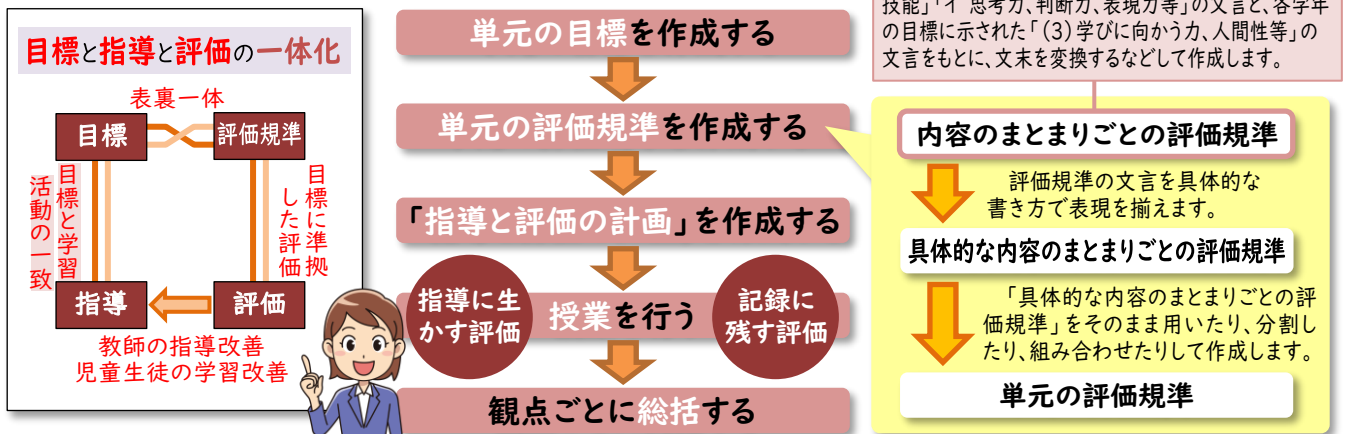
主体的に学習に取り組む態度

数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしているかどうかについて評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中の問題発見や解決の過程において、粘り強く取り組む中で、既習事項を活用したり、話し合いの中で他者の意見を参考にしたりする姿に表れます。また、解決の過程を振り返って、自らの学習を調整し、よりよい表現や方法を考えたり、新たな問題場面を見いだしたり、日常生活の場面において活用しようとする姿に表れます。そこで、活動の様子やノート等の記述内容等から児童の学習状況を把握します。

また、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、単元を通して働かせた数学的な見方・考え方が豊かになるという算数科の特性から、単元前半から後半にかけて高まることが考えられるため、単元の後半に「記録に残す評価」の機会を設定することが考えられます。

2 学習評価の進め方の手順



3 単元における指導と評価の進め方

事例 第3学年「A 数と計算」(4)「除法」 単元名 余りのあるわり算

(参考資料p50)

□単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。 知識及び技能
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。 思考力、判断力、表現力等
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。 学びに向かう力、人間性等

STEP 1

資質・能力の3つの柱に沿って、当該学年の「学年目標」と「内容のまとめり」で示された内容をもとに設定します。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ② 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など)

STEP 2

第3学年「A 数と計算」(4)「除法」の「具体的な内容のまとめり」ごとの評価規準を3つの単元(「1 わり算」「2 余りのあるわり算」「3 大きな数のわり算」)に分割して設定します。

STEP 3

ねらいに応じた評価項目と、記録に残す評価場面を精選し、指導と評価の計画を立てます。「・」…指導に生かす評価を行う代表的な機会
「○」…総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会

□指導と評価の計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
1	除数と商が1位数の除法で、割り切れない場合の計算の仕方を理解する。	① 割り切れない除法の答えを具体物や図などを用いて考える。 ② 除法には、割り切れるときと割り切れないときがあることを知る。	・知① ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	・態① 行動観察 ノート分析
2	余りと除数の関係を理解する。	① 割り切れない除法の計算について余りと除数の関係を調べる。	・知③ ノート分析		
3	等分除の計算について、包含除の計算の方法を基に考え、説明することができる。	① 等分除の場面から題意を捉えて立式し、具体物や図などを用いて答えの見つけ方を考える。	・知① ノート分析	○思① 行動観察 ノート分析	
4	割り切れない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解する。	① 割り切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。 ② 計算練習と答えの確かめをする。	・知② ノート分析		
6	余りのとらえ方について理解を深める。	① 日常生活の場面に当てはめるときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ② 商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		・思② 行動観察 ノート分析	○態① ノート分析
8	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値つける。	① 章末問題に取り組み、学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・知①②③ ノート分析		
9	学習内容の定着を確認する。	① 評価問題に取り組む。	○知①②③ ペーパーテスト	○思② ペーパーテスト	
10	単元の学習内容を基に余りと規則性についての理解を深める。	① 巻末の発展問題に取り組み、学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態② ノート分析

思①の評価のPOINT
第1時では、余りのある場合でも除法を用いてよいことを見出しているかどうかを見取ります。主に「努力を要する」状況の児童を把握し、支援を行います。
第3時では、等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できることを見出しているかを把握し、記録に残します。
【概ね満足できる状況(B)】
・等分除の場面でも余りがある場合の除法が適用できることを、ブロックや図を用いて表現している。
【十分満足できる状況(A)】
・包含除との違いを明らかにしながら、余りがある場合の除法が適用できることを説明している。

問題 1
2.7 mのなわを4 mずつ切って、なわとびのなわをつくれます。何本とれて何mあまりありますか。(式)
(答え)

問題 2
子どもが30人います。4人乗りの車に分かれて乗ります。みんなが乗るには、車は何台あればよいですか。答えの理由も書きなさい。(式)
(答え)
(答えの理由)

思②の評価のPOINT
左のようなペーパーテストを用いた場合、問題1について、式が立てられたら、「知識・技能」①「包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている」について「おおむね満足できる」状況と評価します。また、問題2で、余りを考慮して答えを求め、さらに、「答えの理由」として、「余りの2人も車に乗るから、もう1台必要」などと記述していれば、「思考・判断・表現」②「余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている」について「おおむね満足できる」状況と評価することができます。

「十分満足できる状況(A)」の姿は多様に想定されます。例えば、相手の説明が妥当かどうかを考えながら発言している様子が見られた場合や、自力で解決したことを発表した後、互いの発表をもとに類似点を見いだした記述が、振り返りや学習感想などに見られた場合も「十分満足できる」状況と評価します。



小学校理科

1 学習評価で大切にしたいこと

学習評価の基本的な考え方

学習評価は、「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために重要です。

「教師の指導改善」と「児童の学習改善」

育成を目指す資質・能力を評価する計画の作成

理科では、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成を図ります。学習評価を進めるに当たり、まずは単元の目標や評価規準を作成し、評価場面や評価方法等を計画することが大切です。

2 理科における内容のまとめ

小学校理科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめ」をそのまま「単元及び題材」と捉えることができます。ただし、光と音の性質では、教科書が「光の性質」と「音の性質」に分けて扱っている場合もあり、学習指導要領の「内容のまとめ」と教科書の単元が一致していない場合もあります。

3 3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」とは、自然事象に対する基本的な性質、規則性等の理解、「技能」とは観察実験を行う際の基礎的な技能（器具などの操作、データの記録等）のことです。知識と技能は、発言、記述内容、行動観察、パフォーマンステスト、ペーパーテスト等見取る場面を分け、総括して評価を行います。

思考・判断・表現

4年間を見通し発達段階に応じて問題解決の力を育成します。児童の問題解決の過程の中で、自然事象に対して比較して、関係付けて、条件制御しながら、多面的に調べる活動を通して、それぞれの学年で育成を目指す思考力・判断力・表現力等を児童が身に付けているか、授業内の発言やレポート、ペーパーテスト等から状況を把握し、評価を行います。（参照：学習指導要領解説P26 図3）

主体的に学習に取り組む態度

下記の3つの視点を踏まえ、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ・粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く等）
- ・自らの学習を調整（例：他者と関わりながら、これまでの学習を生かして、問題解決しようとしている等）
- ・理科を学ぶ意義や有用性（例：学んだことを学習や生活に生かそうとしている）

第5学年 B (3) 「流れる水の働きと土地の変化」

評価規準の例

- ① 流れる水の働きと土地の変化についての事物・現象に**進んで関わり、粘り強く、**
粘り強さ
他者と関わりながら問題解決をしようとしている。
自らの学習を調整
- ② 流れる水の働きと土地の変化について、**学んだことを学習や生活に生かそうとしている。**
理科を学ぶ意義や有用性

上記の評価規準に沿って、児童の発言や行動の観察等から評価します。また、授業外でも児童の姿として表出していた場合は評価します。

□「おおむね満足できる」状況(B)の児童の例

これまでに、大雨による増水によって身近な地域でも洪水が起こっていたことを学んだ。
運ばれた土砂によって、家が壊れたりして、すごいエネルギーだと思った。

□「十分満足できる」状況(A)の児童の例

実験で確かめたように、大雨による増水によって土砂が多量に運搬され、大きな災害が起こっていることが分かった。自分がいるところで雨が降ってなくても河川の増水が起こる可能性もあるので、気象情報に注意するようにしたい。

POINT

○評価規準の例②の児童の「おおむね満足できる」状況(B)「十分満足できる」状況(A)を想定して、実際に書いてみましょう。どこをどのように指導して評価していくのが明確になります。



3 単元における学習評価の進め方

事例 第5学年単元名B(3)「流れる水の働きと土地の変化」(全10時間計画)

□単元の目標

流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通じて、それらについて理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり体積させたりする働きを理解している。 ②川の上流と下流によって川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ③雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化することを理解している。 ④観察、実験などの目的に応じて器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①流れる水の働きと土地の変化について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②流れる水の働きと土地の変化について、観察、実験などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	①流れる水の働きと土地の変化についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②流れる水の働きと土地の変化について、 学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

□指導と評価の計画

時	学習のねらい	重点	記録	評価規準・評価方法等
1	○北上川の様子の写真や河原の石に触れたりすることを通して、流れる水のはたらきについて興味関心を持ち、単元の問題を作る。	思		【思考・判断・表現①】記述分析 ・北上川の上流や下流の様子の差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができているか 確認 する。
2	【問題】流れる水のはたらきと土地の変化には、どのような関係があるか、調べていこう ○実験を通して、流れる水の働きを理解する。	知		【知識・技能①】記述分析 ・流れる水には、地面を侵食したり石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることを理解しているか 確認 する。
3	○北上川の上流と下流の情報を集め、全体の様子や石の特徴について、考察することを通して、瓦の石の大きさや形に違いがあることを理解する。	思		【思考・判断・表現②】記述分析 ・上流や下流それぞれの石の特徴について資料を基に考察し、表現するなどして問題解決しているか 確認 する。
4	○雨が短時間に大量に降ったり、長時間降り続いたりしたときの水の速さや量の変化、災害について資料を活用して調べることを通じて、雨の降り方と川の水量の関係について理解する。	態		【主体的に学習に取り組む態度①】観察、記述 ・流れる水の働きと土地の変化についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しているか 確認 する。 【指導に生かす評価】
5	○流れる水の量と速さと流れる水の働きの関係について調べる計画を立てることを通じて、実験への見通しをもつ。	思	○	【思考・判断・表現③】記述分析 ・流れる水の働きについて、 自分の予想を確かめる適切な実験方法を考え、表現しているか評価 する。
6 7	○水量が増した場合のモデル実験を行うことを通じて、流れる水の量や速さと流れる水の働きの関係について理解する。	知	○	【知識・技能②】記述分析 ・モデルを用いて、流れる水の働きについて調べ、結果を分かりやすく記録しているか 評価 する。
8 9	○【現地学習】流れる水の働きと土地の変化についてまとめ、実際の北上川でも流れる水の働きによって、土地の様子が変わっていることを理解する。	知	○	【知識・技能③】記述分析 ・流れる水には、地面を侵食したり石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることや増水により土地の様子が大きく変化する場合があることを理解しているか 評価 する。
10	○復興副読本「いきる かかわる そなえる」を活用して、「強い風」「強い雨」よって発生する災害を調べるとともに、自分たちでできる備えについて考えたことをまとめる。	態	○	【主体的に学習に取り組む態度②】観察、記述 ・流れる水の働きと土地の変化について、 学んだことを生活に生かそうしているか評価 する。 【記録に残す評価】

POINT 1

単元を通して、育成すべき資質・能力を明確にして、具体的に評価規準を作成します。

○[知識・技能]、[思考・判断・表現]の目標は、基本的に、指導事項の文末を「～している。」として示します。

○「主体的に学習に取り組む態度」は、いずれの単元においても、3つの視点を含めて評価規準を作成します。

POINT 2

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの場面での評価規準に基づいて評価するかを決定します。

POINT 3

記録に残す評価場面の精選とともに、日々の授業における指導に生かす評価と、それを踏まえた働きかけや指導改善が重要です。

○ここでは、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する例から考えてみましょう。

・4時間目では、「確認をする。」とし、指導に生かす評価を行います
・10時間目では、いわての復興教育副読本を資料として活用するとともに、これまでの学習内容を生かす学習活動を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するために、記録に残す評価を行います。



【指導に生かす評価】では、児童の学習状況を見取り、必要があれば教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

【記録に残す評価】では、目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。評価したことを指導に生かしつつ、評価したことを記録し、評価情報を総括します。

POINT 4

記録の欄に○が付いていない授業においても、教師が児童の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要です。

POINT 5 「児童の学習改善へ向けた評価の実施」

児童自身に学習の見通しをもたせるために、学習評価の方針を事前に生徒と共有したり、評価の結果をフィードバックする際に、どのように評価したかを改めて児童と共有したりすることで、児童の学習改善へつなげることが大切です。

小学校生活

指導のポイント

教科の特質を理解し、2学年間を見通した指導計画を作成、実施します。また、児童の思いや願いを引き出し、児童が没頭できるような活動や体験を通して、気付きの質を高める学習活動を展開します。

評価のポイント

評価の妥当性や信頼性を高めるために、児童一人一人の気付きを丁寧に見取り、設定した評価規準を踏まえ、評価の判断の根拠を明確にします。

1 生活科における内容のまとめりと単元計画

生活科における「内容のまとめり」は下記のとおりとなります。

【内容のまとめり】

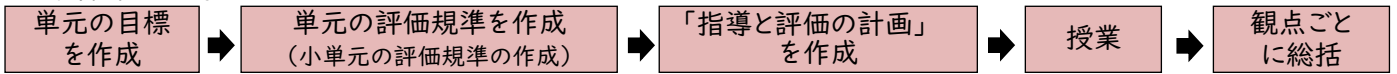
- 内容(1) 学校と生活
- 内容(2) 家庭と生活
- 内容(3) 地域と生活
- 内容(4) 公共物や公共施設の利用
- 内容(5) 季節の変化と生活
- 内容(6) 自然や物を使った遊び
- 内容(7) 動植物の飼育・栽培
- 内容(8) 生活や出来事の伝え合い
- 内容(9) 自分の成長

Point! 2年間を見通した単元計画

生活科の単元の特徴を大切に、2年間を見通した指導と妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫した単元計画を作成することが求められています。

1つの内容で1単元を構成する場合と、複数の内容で1単元を構成する場合が考えられ、複数内容を組み合わせる場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないようにしましょう。

2 学習評価の進め方



3 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準の作成のポイント (具体例)

第1学年 内容(9)「自分の成長」 単元名「思い出すごろく」をつくってあそぼう

(1) 単元の目標

書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の自分を比較し、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付くとともに、これからの期待をもって意欲的に生活できるようにする。

思考力、判断力、表現力の基礎 知識及び技能の基礎

学びに向かう力、人間性等

Check!

単元の目標は育成を目指す資質・能力を具体的・構造的に示したものであり、これを踏まえて単元の評価規準を作成します。

(2) 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付いている。	書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の自分を比較している。	書きためてきた「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、これからの期待をもって意欲的に生活しようとしている。
1	①1年間の学校生活において、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。	Point! 評価として学習状況を見取る時期や場面を精選します。	①つくりたい「思い出すごろく」に合わせて、書きためた「思い出カード」から必要な出来事を選ぶようとしている。
2	②友達と一緒に成長してきた自分自身や自分の成長を喜んでくれる友達の存在に気付いている。	①過去の自分と現在の自分を比べながら、自分らしさや成長し続ける自分を捉えている。	

学習指導要領解説生活編における内容(9)に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすことができるようになったことなどに気付くことである。	現在の自分を見つめ、過去の自分と比べることで、自分らしさや成長し続ける自分を実感することである。また、自分の成長を支えてくれた様々な人の存在、自分の成長についての様々な人との関わりを明らかにすることである。	成長した自分を実感し、それを支えてくれた人に対する感謝の気持ちをもつとともに、成長の喜びがさらなる成長を願う心につながっていくことである。それらは、それぞれの目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的に関わるなど、意欲的に活動する姿になって表れてくる。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いている。	・過去の自分と現在の自分を比べながら、自分の成長を捉えている。	・知りたいことに合わせて、必要な手掛かりを見付けたり、集めたりしようとしている。

Check!
単元や小単元における評価規準は、具体的な児童の姿として作成することが大切です。



Check!
単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行いましょう。評価規準ありきの活動にならないようにしましょう。

「小単元の評価規準」の作成

学習指導要領解説において、「各内容に示された資質・能力に関する記述」を確認するとともに、上記の表にある「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に、小単元の評価規準を作成します。

「知識・技能」	①気付きが自覚されること②個別の気付きが相互に関連付くこと③対象のみならず自分自身についての気付きが生まれることを気付きの質の高まりとして見取ることが大切である。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要がある。	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	知識に関する評価規準(例)「〇〇に気付いている」、「〇〇が分かっている」など ※ 〇〇には、気付きなど知識の基礎の具体を記述する。	
「思考・判断・表現」	技能に関する評価規準(例)「△△において(の際)、〇〇している」など ※ △△には学習活動を、〇〇には学習指導要領解説生活編(P14)に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述する。	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要がある。	
「主体的な取組の態度」	「思考・判断・表現」に関する評価規準(例)「〇〇して(しながら)、△△している」など ※ 〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を記述する。 見付けて、比べて、たとえて、試して、見通して、工夫して…など ※ △△には具体的な児童の姿を記述する。 観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる…など	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信などを踏まえる必要がある。	
	「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準(例)「〇〇し、△△しようとしている」など ※ 具体的な学習活動に即して、〇〇には、①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。	



4 単元における指導と評価の例(単元名「思い出すごろく」をつくって遊ぼう)

(1) 指導と評価の計画

観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

小単元名(時間)	学習活動	評価規準	評価方法
1 「思い出すごろく」をつくろう(4)	・頑張ったことやうれしかったことについて4月から書きためてきた「思い出カード」から、入学以降の出来事を振り返る。 ・「思い出カード」から特に思い出に残っている出来事を選び、それを月ごとの台紙に貼ってつなげ、「思い出すごろく」をつくる。	知① 態①	・行動観察、 発言分析 ・行動観察、 発言分析
2 「思い出すごろく」で友達と遊ぼう(4)	・グループごとに「思い出すごろく」で遊ぶ。 ・友達が選んだ思い出に対する感想を「メッセージカード」を書き、それを交換しながら伝え合う。 ・自分の「思い出すごろく」に貼る。 ※上記の活動の流れを繰り返して行う。	思① 知②	・行動観察、 発言 ・行動観察、 発言や表現物の分析

★B 児の行動や発言等(記録)

B 児は、同じグループの友達と一緒に「思い出すごろく」で楽しそうに遊んだ。自分の駒が止まったマスに書いてある文章を読み、「ああ、こんなことあったよね!懐かしい」等とつぶやきながら、思い出を振り返った友達の成長を喜んだりしていた。「思い出すごろく」で遊んだ後、友達からもらった「メッセージカード」には、音楽の学習に関係することが書かれていた。入学した頃の B 児が音楽に苦手意識を持っていたことを知っていたのである。D 児の「B 児と一緒に練習したから、ぼくも音楽が好きになりました」という「メッセージカード」を嬉しそうに読んでいた。B 児はそのメッセージカードを該当する「思い出カード」の近くに貼っていた。

授
業

★評価規準における具体的な児童の姿(想定)

- ・「思い出すごろく」で遊びながら、そのマスに書かれている友達の成長に共感している。
- ・「メッセージカード」を読みながら、自分の成長を喜んでくれる友達の存在に気付いている。
- ・友達との交流を通して、自分の成長が新たに見付かったことを喜んでいる。
- ・「メッセージカード」と「思い出カード」をつなげて考えながら、自分の成長には友達の励ましがあつたことなどに気付いている。

★評価方法…いずれも行動観察、発言や表現物の分析

(2) 学習評価と指導の改善

児童の行動や発言から、「思い出すごろく」で遊んだり「メッセージカード」を読んだりすることで、友達の成長に共感したり、自分の成長には友達の励ましがあつたことや自分の成長を喜んでくれる友達がいることに気付いていると見取ることができました。そこで、評価は B と判断しました。

例えば、本児が友達からの「メッセージカード」を貼りながら、自分の成長における友達の存在やそのよさなどについて考えてそれを台紙に書き加えたり、友達との交流を通して、「思い出カード」には書いていなかった自分の成長に新たに気付いたりすることができると評価は A と考えられます。

そのため、教師は、この後すごろく遊びの様子を撮影した動画をもとに振り返る場を設けるとともに、気付いたことを書き加える時間を保障しました。

Point!

行動や発言を分析し、児童の学びや育ちを読み取るには、普段から児童理解に努めることも大切です。



Point!

より信頼性の高い評価となるよう、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉えるように注意します。自分や対象の過去と現在、自分と他者との気付きが関連付けられ、新たな気付きが生まれているなど、単元に即して質的に高まった姿を想定する必要があります。

小学校音楽

指導のポイント

日々の授業において、指導事項と共通事項の「**明確化**」、「**焦点化**」、「**具体化**」を図り、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成しましょう。

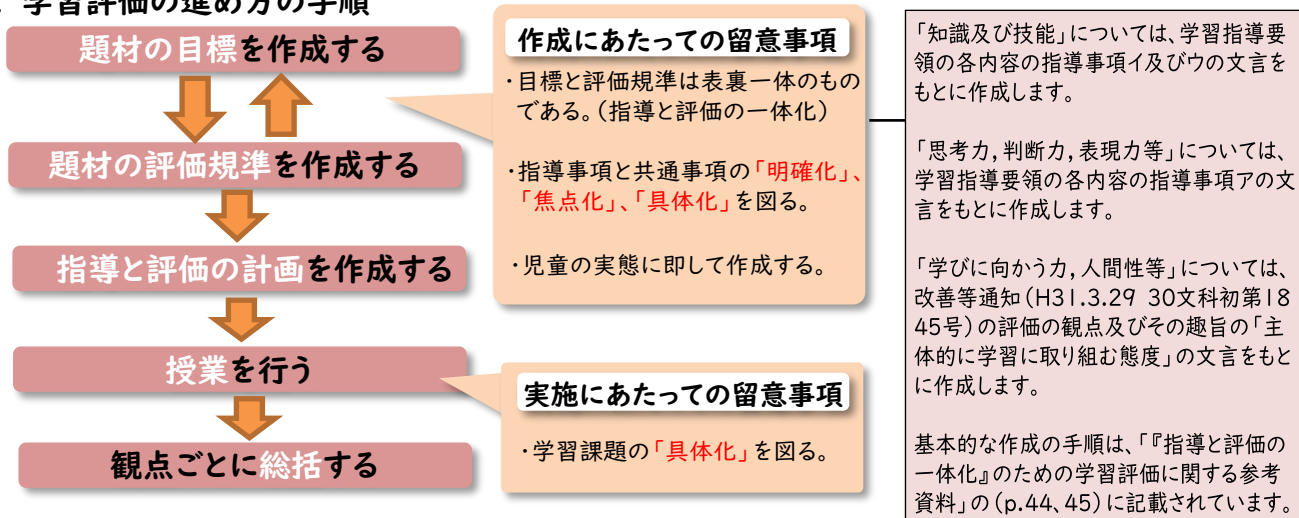
評価のポイント

指導事項と共通事項の「**明確化**」、「**焦点化**」、「**具体化**」を図ることにより、児童が資質・能力を身に付けている具体の姿（記述や発言、技能の状況等）を見取りましょう。

1 学習指導要領の目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
内容	表現	イ	ウ	ア
	鑑賞	イ	—	ア
	[共通事項]	イ	—	ア

2 学習評価の進め方の手順



3 題材における指導と評価の進め方

【事例】第4学年 歌唱「とんび」

題材名「情景を思い浮かべ、音色や強弱と曲想との関わりを感じ取って歌おう。」

□題材の目標

- (1) 「とんび」の曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、ハ長調の楽譜を見て歌う技能を身に付ける。→ 指導事項イ及びウの(ア)
- (2) 「とんび」の音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
→ 指導事項ア、共通事項における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素「音色」、「強弱」
- (3) 情景を思い浮かべ、音色や強弱と曲想との関わりを感じ取って歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む(とともに、日本のうたに親しむ)。 → 題材名+評価の観点及びその趣旨

STEP 1

資質・能力の3つの柱に沿って作成します。どの**指導事項**と**共通事項**のどの部分を取り扱うのか、しっかりもつことが「**明確化**」です。

(3)は、前半に題材の学習で興味・関心をもたせたい事柄を記載し、後半は評価の観点及びその趣旨の「主体的に学習に取り組む態度」の文言をもとに設定しました。文末()内の感性や思いやりなどの観点別評価や評定には示しきれない部分を加えてもよいです。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知「とんび」の曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方との関わりについて気付いている。</p> <p>技思いや意図に合った表現をするために必要な、ハ長調の楽譜を見て歌う技能を身に付けている。</p>	<p>「とんび」音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

STEP 2

表現領域の「知識・技能」の観点については、見取る場面が違う場合、**知**(「～気付いている」)と**技**(「～身に付けている」)に分けて設定します。見取る場面が同じ場合、**知技**として一文で設定する場合があります。「技能」に関わる指導事項ウの(ア)には複数の指導内容がありますが、本題材は「ハ長調の楽譜を見て歌う技能」についての指導内容に「**焦点化**」して指導します。鑑賞領域は、「知識」のみの設定となります。

STEP 3

絞り込んだ指導事項について、児童や教師が、何を学習する(させる)か分かるように具体的にかみ砕くことが「**具体化**」です。

□指導と評価の計画

時	◆学習課題 ○学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	◆せんりつの動きに合った声の出し方と強弱を工夫しよう。	知 〈学習シート〉		
	○1番を歌うことができるようにした後、「ピンヨロー」の部分に着目し、旋律の動きとそれにふさわしい音色と強弱について気付く。			
2	◆とんぴの様子を表すのにふさわしい声の出し方と強弱で歌おう。	技 〈聴取〉	思 〈観察、学習シート〉	態 〈観察、学習シート〉
	○とんぴの様子を表すにはどうすればよいか、イメージをもとに旋律に合った音色や強弱の付け方に気付いて歌う。			

POINT②

○態における評価場面の精選

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。
本題材では、第2時に該当するが、第1時も評価をしないということではない。

STEP 4

本時の学習課題についても「**具体化**」します。「**具体化**」を図ることで、本時のねらいを教師と児童で共有することに繋がります。教師は、児童に何を学ばせ、どんな力を身に付けさせるのかを具体的にもちましましょう。
また、学習課題に対して、分かったこと、できるようになったことを児童自身に言わせたり書かせたりしましょう。

POINT①

OB と判断する状況例 (例:思の場合)

音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、考えをもとにどのように歌うかについて話したり書いたりしている。

【概ね満足できる記述例(B)】

1回目と2回目のピンヨローは、大きなとんびなので強く大人のように歌いたい。
3回目と4回目のピンヨローは小さなとんびなので弱く子供のように歌いたい。

OA と判断する状況例 (例:思の場合)

音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、それらの関わりについて考え、その考えをもとにどのように歌うかについて思いや意図をもったことについて話したり書いたりしている。

【十分満足できる記述例(A)】

1回目と3回目のピンヨローは、親とんびが優しく話しかけている様子にしたいので、少し強めだけれど優しい声の出し方で歌いたい。2回目と4回目のピンヨローは、子とんびが親とんぴの呼びかけに嬉しそうに答える様子にしたいので、弱めだけれど明るくはっきりとした声の出し方で歌いたい。

※併せて、【努力を要する状況(C)】への手立てを考える。例えば、どのように歌うか思いや意図を見取ることが難しい児童に対しては、音色(声色)と強弱について聴き取ったことと感じ取ったことを、言葉のほかに身体表現や絵で表現させることなどが考えられる。

STEP 5

児童が実現している姿(記述や発言、技能の状況等)を教師自身がもつことも大切です。

小学校図画工作

指導のポイント

児童一人一人が、自分の感覚や行為を通して形や色などを理解することと、自分のイメージをもつことに配慮しながら、表現と鑑賞を関連させた指導をすることが大切です。

評価のポイント

一人一人の表現が目の前で展開されていくため、観察は最も重要な評価方法です。児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などは、児童の動きや視線、会話などから捉えていくことが大切です。

1 図画工作における資質・能力と内容のまとまりの関係

	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識	技能		
造形遊び	[共通事項]ア	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)ア、[共通事項]イ	—
絵や立体、工作	[共通事項]ア	「A表現」(2)イ	「A表現」(1)イ、[共通事項]イ	—
鑑賞	[共通事項]ア	—	「B鑑賞」(1)ア、[共通事項]イ	—

2 観点別評価のポイント

知識・技能

知識・技能(知識)：表現及び鑑賞の活動を通して、自分の感覚や行為を通して形や色などの造形的な特徴を理解することについて評価します。観察や児童との対話から学習の状況を捉えることが考えられます。

知識・技能(技能)：材料や用具を適切に扱い、前年度までの経験を生かし、手や体全体を十分に働かせて、表し方を工夫していることについて評価します。材料や用具を扱う児童の具体的な様子を捉えたり、作品の全体の印象だけでなく部分にも着目し、材料や用具をどのように扱っているかを具体的に捉えたりすることが考えられます。

思考・判断・表現

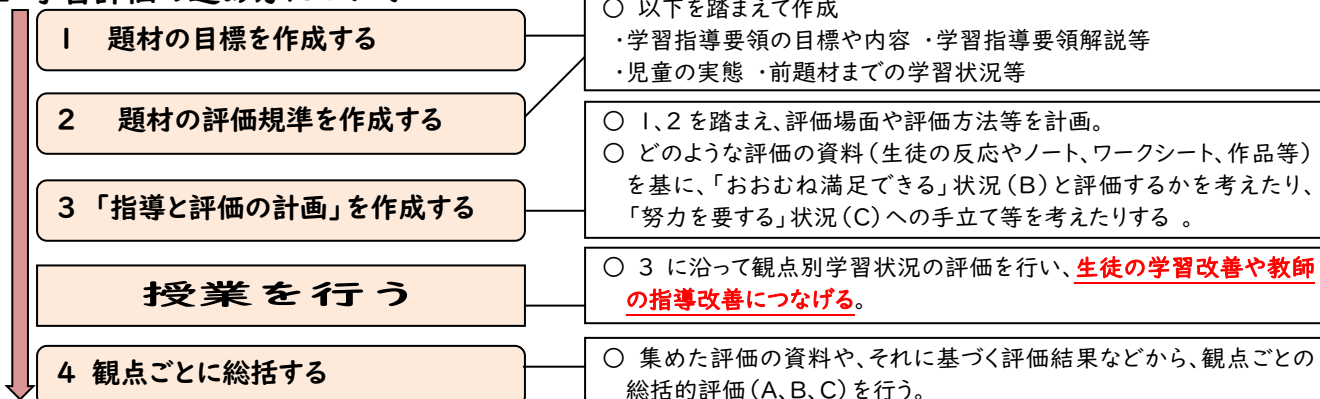
思考・判断・表現(発想や構想)：感じたり想像したりして表したいことを見付けている姿を主に観察や対話、作品から把握します。学習活動に取り組む中では多様な姿が現れることになるため、児童の表したいことを見付けるきっかけの傾向を事前に想定しておくことで、学習状況を判断しやすいということが考えられます。

思考・判断・表現(鑑賞)：造形的な見方・考え方を働かせて、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な良さや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりしていることについて評価します。

主体的に学習に取り組む態度

つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている姿を、観察や対話、ワークシートなどから捉えて評価します。「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。

2 学習評価の進め方について



3 指導と評価の例

事例 第3学年「絵や立体、工作」「鑑賞」

題材名 「のこぎりザクザク生まれる形」(参考資料 p.54)

題材の目標設定のPOINT

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう人間性等」は、学年の目標(3)を参考にします。題材に即してどのような内容が当てはまるのか書き換えたり削除したりします。

□題材の目標

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かる。
 - 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(「A表現」(2)イ)
- 木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(「A表現」(1)イ)
 - 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。(「B鑑賞」(1)ア)
 - 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。(「B鑑賞」(1)イ)
- 進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。</p> <p>技 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>発 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>鑑 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態 つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

題材の評価基準の設定のPOINT

具体的な活動を踏まえ言葉を省略や変更したりしている。(下線部は変更箇所)。

□指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等		
		知・技	思	態
1 2	のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。 のこぎりを適切に扱う。	技能 ○ 【活動の様子】	発想や構想	○
3 4	切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。		○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	【活動の様子・対話・作品・ワークシート】
5	さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	鑑賞	
6	自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。		○ 【活動の様子・対話・作品・ワークシート】	○

○ 指導に生かす評価

生徒の学習の実現状況を見取り、個に応じた支援を行うなど、教師の指導の改善につなげるためにしています。

◎ 記録に残す評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用います。全員の学習状況を把握し記録に残します。

作品からの評価について

作品を評価の資料として活用する場合も、評価の観点と照らし合わせて評価することが大切です。作品と活動の過程での評価と照らし合わせることで、評価の妥当性や信頼性を高めることになります。また、完成した作品を見直すことで、活動の様子や対話などで捉えたことを確かめたり、表現の変化や、そこで育まれた資質・能力を把握したりすることができます。

小学校家庭

指導のポイント

日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題をもって考え、解決に向けた一連の学習活動を進めることで、課題を解決する力や主体的に取り組む姿勢をめざしましょう。

評価のポイント

「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化し、それぞれの評価規準に基づいて、どのような生徒の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておくことが大切です。

1 家庭における内容のまとまりごとの評価規準

家庭においては、学習指導要領に示す「第2 各分野の目標及び内容 2 内容」の項目を「内容のまとまり」としており、評価規準を作成する際の単位となります。内容のまとまりごとの評価規準は以下の3観点で設定します。

知識・技能

基本的に、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]について、その文末を「～について理解している。」「～について理解しているとともに、適切にできる。」として、評価規準を作成します。
※「A 家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている。」として、評価規準を作成します。

思考・判断・表現

基本的に、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力・判断力・表現力]の指導事項について、その文末を分野の評価の観点の趣旨に基づき、「～について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成します。

POINT

〈思考・判断・表現〉について
教科の目標(2)に示されている学習過程に沿って、「問題を解決する力」が身に付いているかを評価することに留意しましょう。



主体的に学習に取り組む態度

基本的に、当該指導項目で扱う指導事項A及びBと分野の目標、分野別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。具体的には下記の三つの内容を全て含め、題材の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)
- ②自らの学習を調整(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする側面)
- ③実践しようとする態度

文末を、「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成します。

評価規準の例(内容 C 消費生活・環境(2)環境に配慮した生活)

家族の一員として、生活をよりよくしようと、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

①粘り強さ

②自らの学習を調整

③実践しようとする態度

2 学習評価の進め方の手順

題材の目標を作成する

STEP1 題材の目標作成

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成します。
- 生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成します。

題材の評価規準を作成する

STEP2 題材の評価規準の作成

- 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成します。

「指導と評価の計画」を作成する

STEP3 「指導と評価の計画」作成

- 「おおむね満足できる」状況(B)の評価と「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えます。

授業を行う

STEP4 観点ごとの評価

- 評価資料やそれに基づく評価結果から、観点ごとの目標に準じた評価を行います。
- 評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

観点ごとに総括する

3 題材における指導と評価の例

事例 第5学年 題材名 おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁

□題材の目標

STEP1 題材の目標作成

- (1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
- (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、解決の課題に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

□題材の評価規準

STEP2 題材の評価規準の作成

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

□指導と評価の計画

STEP3 「指導と評価の計画」作成

時	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに、米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解することができる。	①・学習カード ※ペーパーテスト ②・学習カード	ある程度の内容のまとめりについて実施することも考えられる	
2	○米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見だし、おいしく食べるための課題を設定することができる。 おいしいごはんとみそ汁の作り方を探ろう		①・行動観察 ・学習カード	
3 4	○日本の伝統的な日常食である米飯の調理や配膳の仕方について理解し、適切に炊飯や配膳をすることができる。	③・学習カード ・行動観察 ④・米飯とみそ汁の配膳の写真		①・ポートフォリオ ・行動観察
5 6	○日本の伝統的な日常食であるみそ汁について理解し、適切に調理することができる(ペア調理)。	⑤ 学習カード ・確認テスト ・行動観察	5、6時間目はペア調理を行い、「指導に生かす評価」を行う。 8、9時間目は一人調理を行い、「記録に残す評価」とする。	
7	○「家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁」の「オリジナルみそ汁(試し作り)」の調理計画を考え、工夫することができる。		②・調理計画・実践記録表 ③・調理計画・実践記録表	②・ポートフォリオ ・調理計画・実践記録表
8 9	○オリジナルみそ汁の調理(試し作り)をすることができる(一人調理)。	⑤ 行動観察 ・調理計画・実践記録表	④・行動観察	③・ポートフォリオ ・調理計画・実践記録表 ・行動観察
10	○「家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁」の調理計画を考え、工夫することができる。			③・ポートフォリオ ・調理計画・実践記録表 ・行動観察

□実際の学習評価例

STEP4 観点ごとの評価

調理計画・実践記録表の一部 【思考・判断・表現③】

家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁を作ろう		
自己評価	友達から	家庭実践に向けて
手順どおりに調理できた(○) <理由> 手順どおりにできたけど、乾燥わかめの量が気になった。 材料の切り方の厚さ (△) <理由> じゃがいもに火が通るまで時間がかった。	手順どおりに調理できた(○) <理由> 手順どおりにできたけど、乾燥わかめの量が気になった。 材料の切り方の厚さ (△) <理由> かいじゃがいもがあったよ。	思③

「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例

家庭実践では、じゃがいもに早く火が通るように、厚さ3ミリの薄切りにします。

「十分満足できる」状況(A)と判断する例

家庭実践では、じゃがいもに早く火が通るように、厚さ3ミリの薄切りにします。きぬさやは、最後に入れます。乾燥わかめは給水するとどのくらい増えるのかを調べ、家族の好みを聞いて量を決めます。

小学校体育

指導のポイント

単元で取り上げる指導内容に基づいて、単元の目標を設定し、それを実現するために適した学習活動を位置付け、課題解決に向けた学習過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の動きや記述等があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか、運動領域・保健領域それぞれの具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

1 体育科における「内容のまとめりごとの評価規準」

学習指導要領に示す「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりして示したものです。

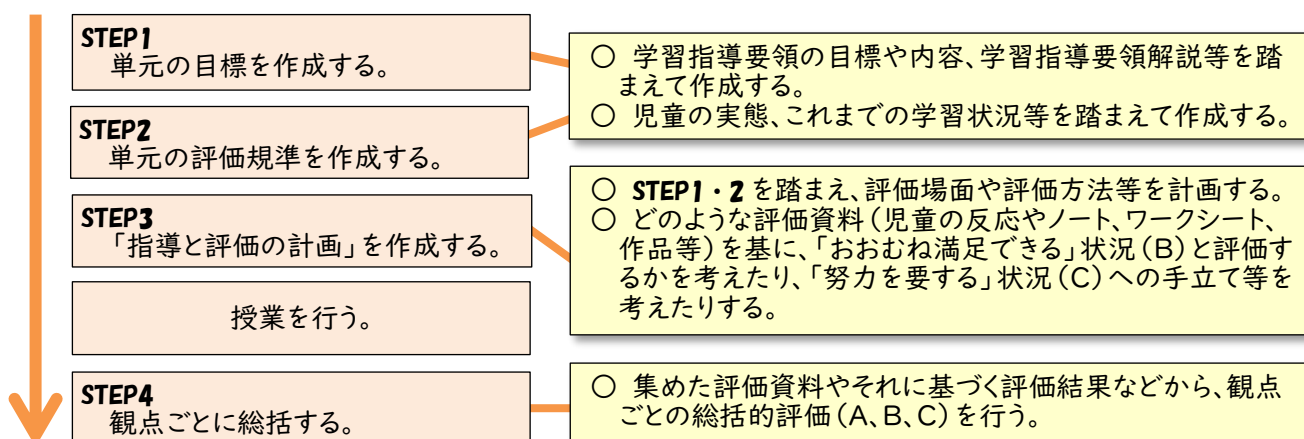
POINT

カリキュラム・マネジメントの視点から、低・中・高学年の各領域の全体像を俯瞰し、2 学年にわたっての指導によって、各領域の内容が身に付いた姿を「内容のまとめりごとの評価規準」として設定することで明らかにします。記載事項の文末を「～すること」から「～している」などの変換し作成します。



2 学習評価の進め方について

体育科においては、単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、以下のように進めることが考えられます。



3 単元における指導と評価の例

事例 第1学年及び第2学年「B 器械・器具を使つての運動遊び」
単元名 マットを使った運動遊び(第2学年)

POINT

単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができます。語尾は「～ことができるようにする」と表記します。



□単元の目標

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

□単元の評価規準

POINT

単元の評価規準を作成する前に、単元の目標から評価の視点を整理します。その際、児童の実態等を考慮しつつ、本文及び改善等通知の「観念の趣旨」をもとに作成します。語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断)、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」、「～しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外)と表記します。

「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定します。「思考・判断・表現」については、思考・判断の評価規準と表現の評価規準に分けて設定します。「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中支えて逆立ちをしたり、体を反らしたりして遊ぶことができる。	①道やジグザクなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や後片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

POINT

「内容のまとまりの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿として上記のようなより具体化した評価規準を作成します。
 各観点とも複数個に細分した評価規準を想定しますが、順序性を示すものではないことに留意します。



□指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動(感覚づくりの運動遊び)			マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川遊び ・腕支持での平均台遊び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合っ楽しむ。	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
		転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
45		振り返り→整理運動→片付け				
知		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察	POINT 1時間につき1~2程度の評価の観点にするなど、無理のない計画を立てます。	
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	

※知・・・「知識・技能」、思・・・「思考・判断・表現」、態・・・「主体的に学習に取り組む態度」

POINT

単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てます。
 指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成します。



□毎時間の観点別評価の進め方

(1) 指導と評価の重点化

毎時間の指導においては、重点的に指導する内容を絞って指導することが想定されます。その際、重点的に指導する内容の指導と同時間内に評価を行う場合がありますが、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられます。

(2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性

ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを単元の終盤までにAまたはBとなるよう、指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要です。

小学校外国語

指導のポイント

コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を単元の中に位置づけ、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して資質・能力を育成しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておきます。その上で、形成的評価により児童の学習状況を的確に把握し、指導改善を図りながら、総括的評価の場面を迎えることが大切です。

目標に向けて充実した言語活動が行われれば、自ずと評価はついてきます。

1 外国語科における内容のまとめ

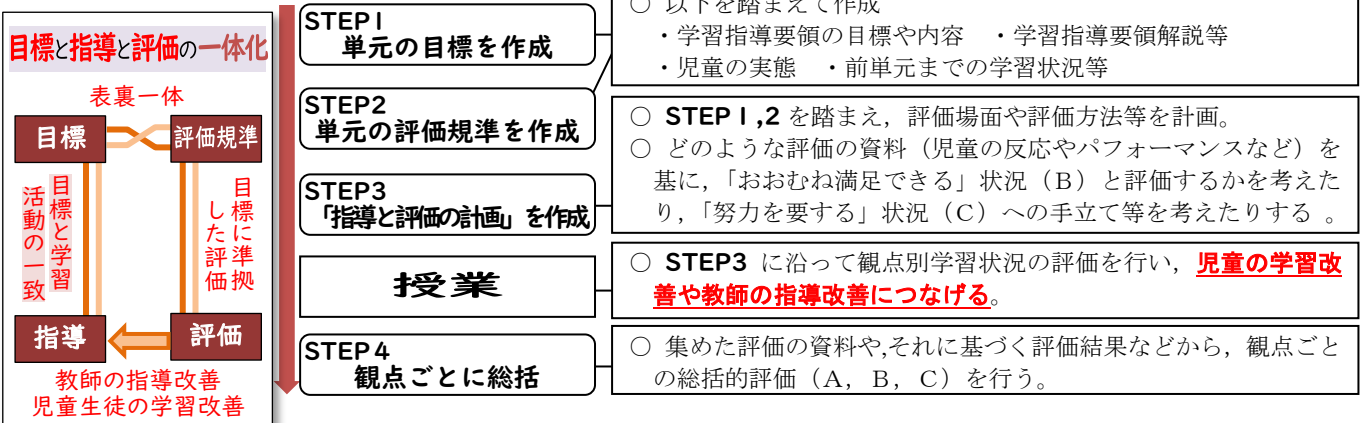
【目標】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
聞くこと	アイウ	
読むこと	アイ	
話すこと〔やり取り〕	アイウ	
話すこと〔発表〕	アイウ	
書くこと	アイ	

【評価】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞			
読			
話や			
話発			
書			

2 学習評価の進め方について



3 「内容のまとめ」ごとの評価規準

外国語科においては、各単元で取り扱う事柄や、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

【例：話すこと〔やり取り〕の場合】

知識・技能

<知識>

- ・「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
- ・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
- ・言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」などの形で当てはめることも考えられる。

<技能>

- ・「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を伝え合う技能を身に付けている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元で扱う題材における話題等が入る。
- ・【内容】には、当該単元の中心となる言語活動において伝え合う、【事柄・話題】についての自分の考えや気持ち、あるいは指示や依頼及びそれらへの応答など、伝え合う内容が入る。



思考・判断・表現

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合っている。」が基本的な形となる。
- ・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを、「○○に応じて」「○○するよう」「○○するために」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。

主体的に学習に取り組む態度

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。
- ※ 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況については、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて評価する。

4 単元における指導と評価の例

事例 We Can I Unit2 When is your birthday?
 における「話すこと[やり取り]」 ※「聞くこと」についての評価については割愛

□単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。
 ※ なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行わすが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

□単元に位置付ける主な言語活動

バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 月日の言い方や、 言語材料 I like/want~. Do you like/want~? What do you like/want? When is your birthday?、 その答え方について理解している。 <技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、 I like/want~. Do you like/want~? 言語材料 What do you like/want? When is your birthday? 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	自分 の ことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。 内容 事柄・話題	自分 の ことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 内容

関係する領域別目標

「聞くこと」
 イ ゆっくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようになる。
 「話すこと[やり取り]」
 ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
 「書くこと」
 ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようになる。

POINT

「話すこと[やり取り]」は、「聞くこと」が前提となるため、十分に「聞く」活動を行うことに留意します。

POINT

目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育みます。

POINT

形成的評価により、児童の学習状況を把握し、児童が「できる」ように指導改善を図ることが重要です。

POINT

cの状況の児童にどのような手立てを講じるかが重要です。

□指導と評価の計画

時	【評価場面】◎:評価規準 <評価方法>	A児
1-5	記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。	
6	【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 ◎ [知・技] 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。 <行動観察> ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。	(知) c 変容
7	【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価 ◎ [思・判・表] 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察> ◎ [態] 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。<行動観察> ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。	(知) b (思判表) b (態) b

本単元におけるA児の評価 「知識・技能」:b 「思考・判断・表現」:b 「主体的に学習に取り組む態度」:b

□学期における評価(例)

b の数により領域の総括を B とした例

単元・領域→	1 聞	2 聞	3 聞	4 聞	2 や	3 や	や	1 発	発	学期
知技	b	a	b	B	b	b	B	b	B	B
思判表	b	b	a	B	b	b	B	b	B	B
態	b	b	a	B	b	b	B	b	B	B

※ 5年生の1学期は、「読むこと」「書くこと」の指導は行わすが、まだ始めて間もなく、力がついていないため、記録に残す評価は行わないということも考えられる。

単元・領域→	4 聞	5 聞	聞	6 読	読	4 や	7 や	や	5 発	6 発	発	7 書	書	学期
知技	b	b	B	b	B	b	b	B	a	a	A	b	B	B
思判表	b	b	B	b	B	c	b	B	b	b	B	b	B	B
態	b	b	B	b	B	b	b	B	b	b	B	b	B	B

変容を評価し、領域の総括を B とした例

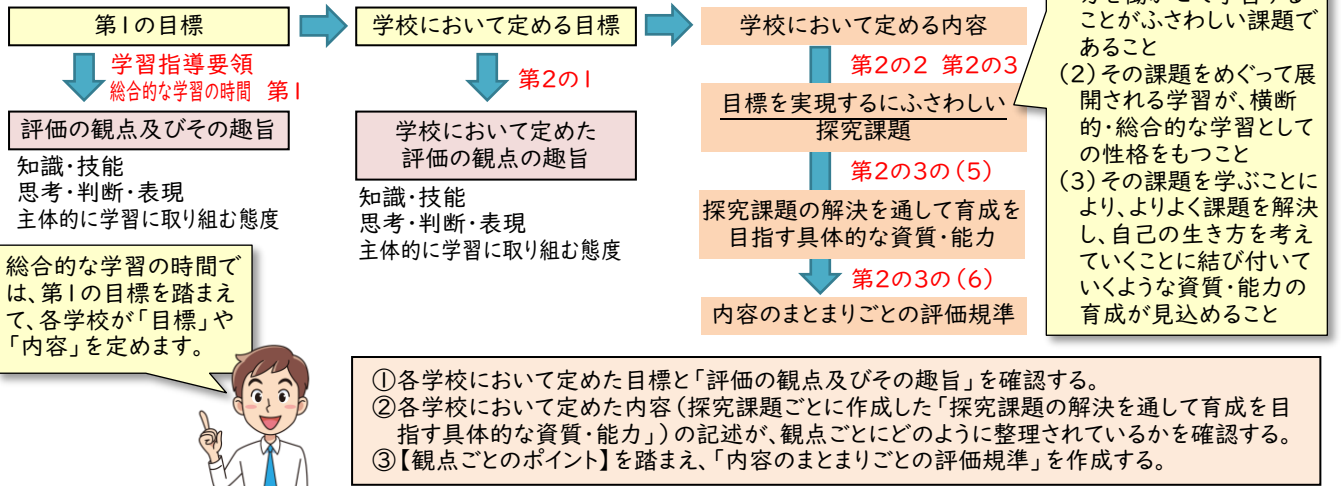
評価の方法、時期、基準等については校内において確認・改善することが重要です。

小学校 総合的な学習の時間

指導と評価のポイント

児童が自ら課題を解決する過程を想定し、探究的な学習のプロセス「①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現」を意識して指導にあたりるとともに、目指す資質・能力が育成されるように、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返されるような学習活動のまとまりを計画することが大切です。

Ⅰ 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成の手順



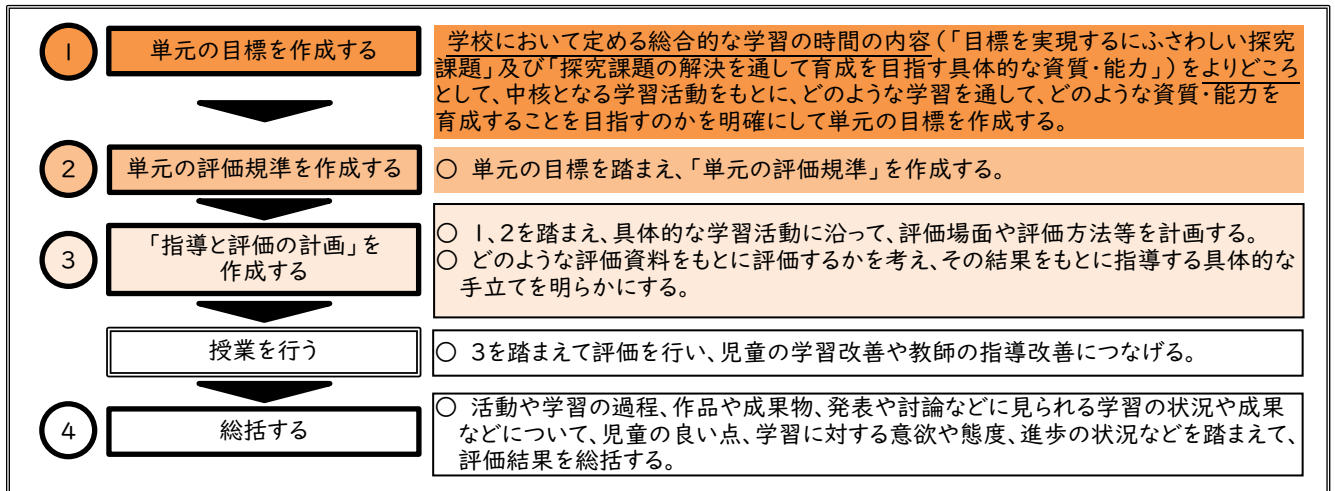
事例 単元名 地域の絆を再生しよう(第6学年) 内容のまとめり「福祉」(全50時間) (参考資料p56)

内容のまとめり			
目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
身の回りの高齢者とそのくらしを支援する仕組みや人々	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化などの地域課題の解決に向けた取組は、地域の理解や協力によって持続可能なものとなることを理解する。(理解している。) ・ 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。(実施している。) ・ 少子高齢化などの地域課題への理解は、高齢者とその暮らしについて探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。(気付いている。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化などの地域課題への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。(もっている。) ・ 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。(蓄積している。) ・ 課題解決に向けて、観点到に合わせて情報を整理し考えることができる。(考えている。) ・ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。(表現している。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向け、自他のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。(取り組もうとしている。) ・ 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。(学び合おうとしている。) ・ 地域との関わりの中で自分にできることを見付けようとする。(見付けようとしている。)

文末の下線部を()のようすることで、「内容のまとめり」から「内容のまとめりごとの評価規準」を作成することができます。

単元の目標	
高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動を通して、	学習対象や学習活動
高齢者のくらしを支える人々の取組や思いに気付き、	知識及び技能
「地域の人々が集い交流できる場」の在り方について考えるとともに、	思考力, 判断力, 表現力等
世代を越えて交流していくことの大切さを感じながら生活していくことができるようにする。	学びに向かう力, 人間性等

2 学習評価の進め方の手順



単元名	単元の評価規準		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
地域の絆を再生しよう	①「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し協働してつくることで、持続可能なものとなることを理解している。 ①概念的な知識の獲得 ②日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者に適切に関わっている。 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③高齢者への接し方など自分の行動の変容は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。 ③探究的な学習のよさの理解	①地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分のできることを具体的に考えている。 ①課題の設定 ②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 ②情報の収集 ③持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③整理・分析 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 ④まとめ・表現	①課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 ①自己理解・他者理解 ②「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②主体性・協働性 ③課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。 ③将来展望・社会参画
	「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に、単元で行う学習活動に即して具体的に記述します。		

各観点の評価規準を作成する際のポイントとなる視点

指導と評価の計画

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 高齢者のさみしい気持ちをなくす「地域の茶の間」をつくろう。(10)	・ 地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気付き、理想と現実の隔たりから学級全員で取り組む課題を設定する。 ・ 必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画(場所や日時、プログラム等)を立てる。 ・ 学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら、複数回の「地域の茶の間」を開催する。		①		・ 発言内容 ・ 作文シート
	2 持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう。(15)	・ 「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。 ・ 「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。 ・ モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いについて考える。 ・ 自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方に気付く。			① ② ③
3 高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくろう。(12)		・ 持続可能な「地域の茶の間」の実現に向け、必要な情報を集め、場所や日時、プログラム等の計画を立てる。 ・ 学習課題に照らし、持続可能な「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。	①	②	
4 地域との協働で持続可能な「地域の茶の間」をつくろう。(13)	・ これまでの活動で課題が解決されたかを振り返るとともに、地域の誰と協働すればよいかを考える。 ・ 地域の人に、協働で持続可能な「地域の茶の間」を継続開催することを働きかける。 ・ これまでの活動を通しての自分の変容を振り返り、作文にまとめる。			③ ④	・ 発言内容 ・ 作文シート ・ 発言内容 ・ 作文シート ・ 作文シート

小学校 特別活動

指導のポイント

児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて、共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

評価のポイント

児童が自信を持ったり、意欲を高めたりすることにつながる評価となるようにすることが重要です。活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

1 「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順(参考資料 P27~30)

① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【初等中等教育局通知(H31.3.29)(改善等通知)別紙4より】

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。



*特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)をもとに重点化を図った例

観点	集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
趣旨	多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

各学校の実態に合わせて設定します。



④ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「知識・技能」のポイント

話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。

「思考・判断・表現」のポイント

話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して、課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとします。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述します。各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。

2 特別活動の学習評価の工夫

児童が自信をもったり、意欲を高めたりすることにつながる評価となるようにします。

☆児童一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。

☆指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を目指すのかを検討し、共通理解を図ってその取り組みを進めることが求められる。そのうえで、「目指す児童の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況が見られた場合に指導要録に○を付ける。

児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿(参考資料 P46)

◎目指す児童の姿

みんなで頑張ったことを認め合う内容はどれがよいか根拠を明確にしながらか発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。

【思考・判断・表現】〈発言・観察〉

学習指導案には、十分満足できる活動の状況をもとに見取るため、具体的に児童の姿をいくつか想定し記述します。

3 観点別学習状況の評価の総括(参考資料 P50)

以下は、どの議題にも共通する項目を定めて評価し、機会を捉えて顕著な事項を見取って記録した結果が、学期や年間を通して一覧で見られるようにした評価補助簿の例です。学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら、機会を捉えて評価します。

学級活動(1)における評価補助簿の例

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
		と話し合いの進め方を理解して、ま	いたり、意見のよさを生かしたり、発言したりして	うし、意欲的に取り組む	決定したことを友達と協力し、役割を達成し、自分	
1	A	○	○	○○	7/16 集会の準備を休み時間に一生懸命行い、全員分のメダルを作っていた。	○
2	B	○	○	○	9/17 学級会では、みんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	○
3	C					
4	D			○		
5	E	○○	○○	○○	6/15 準備をしたりクイズを考えたりと主体的に行動し、みんなを楽しませた。 9/17 司会を務め、出された意見を生かして合意形成を図ろうとしていた。	○

どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられます。

「○」やメモの記述がない児童について、児童の良さを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすことが重要です。

一連の学習過程を通して、児童の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価します。十分満足できる活動の状況の場合、その都度○を付けたり、メモ欄にその様子の記述を加えてメモを書いたりします。

4 児童指導要録における特別活動の記入例(参考資料 P41)

特別活動の記録		学年					
内容	観点	1	2	3	4	5	6
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白		○	○		○	

・各活動、学校行事ごとに、「十分満足できる活動の状況にある」と判断される場合に○印を記入します。

・特別活動は、担任以外の教師が指導することも多いことから、**評価体制を確立し共通理解を図って子供たちのよさや可能性を多面的総合的に評価**することが求められます。

全学年共通の評価の観点を記入します。観点の変更がある場合を想定し余白をとっておきます。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、○をつけた根拠を簡潔に示すようにします。

中学校国語

指導のポイント

単元で取り上げる指導事項に基づいて、単元の目標を設定し、その目標を実現するために適した言語活動を位置付け、課題解決の過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の記述または発言があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動を通じた具体的な生徒の姿を想定しておくことが大切です。

1 国語科における「内容のまとまりごとの評価規準」

学習指導要領の目標や内容を踏まえ、以下のように「内容のまとまりごとの評価規準」を設定します。国語科においては、基本的に「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

知識・技能

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成します。

思考・判断・表現

基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力, 判断力, 表現力等]の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成します。
評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において、」と明記します。

POINT

「知識・技能」と「思考・判断・表現」のどちらの観点においても、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもあります。



主体的に学習に取り組む態度

下記の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習を調整(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点において重点とする内容(特に粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

第1学年[思考力, 判断力, 表現力等]「C 読むこと」

単元に位置付ける言語活動:「少年の日の思い出」を読んで、表現の効果について解説する活動(C(2)イ)

評価規準の例

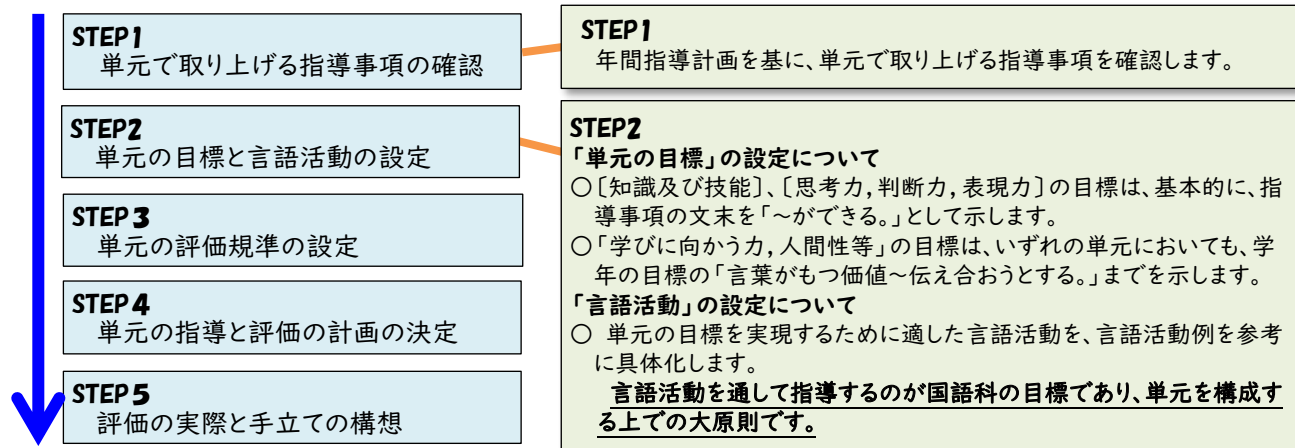
積極的に 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考え、学習課題の見直しをもって 解説しようとしている。

①粘り強さ ③他の2観点において重点とする内容 ②自らの学習を調整

④当該単元の具体的な言語活動

2 単元の評価規準の作成の手順

国語科においては、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成していきます。まずは、本単元で取り上げる指導事項を確認することからはじめましょう。



3 単元における指導と評価の例

事例 第2学年「C 読むこと」(文学的な文章)

単元名 「走れメロス」で描かれている表現の効果を考えよう～(走れメロス)

□単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。 [知識及び技能](1)エ
- (2) 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)ア
- (3) 観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えることができる。 [思考力,判断力,表現力等]C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力,人間性等」

□単元に位置付ける言語活動

作品を比べて読み、物語の展開と表現の効果について考えたことを伝え合う。 関連:[思考力,判断力,表現力等]C(2)イ

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	①積極的に表現の効果について考え、学習課題に沿って伝えようとしている。

STEP 3

前ページの作成の仕方を参考に、単元の評価規準を作成します。

STEP 4

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

□指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1 2	○「走れメロス」と「人質」を読んで相違点や疑問点を整理し、学習計画を立てる。	
3 4 5	○「走れメロス」の登場人物の設定の仕方の特徴について考える。 ○書き加えられた内容を基に、物語を印象付けている表現とその効果について考える。	[思考・判断・表現①]ワークシート ・登場人物の描かれ方と特徴について、物語の展開を踏まえてまとめているか確認する。 [知識・技能]ワークシート ・新たに書き加えられた描写に着目し、物語の文脈上の意味を捉えているか確認する。 [思考・判断・表現②]ワークシート ・表現の効果について、物語の展開と結び付けて考えをまとめているか確認する。
6	○「走れメロス」に込められた作者の意図や表現の効果について交流する。	[主体的に学習に取り組む態度]観察・ノート ・「人質」と比較した「走れメロス」の表現のよさを伝えようとしているか確認する。

POINT

- ここでは、評価する時間と評価方法、そして、「おおむね満足できる」状況(B)の例を示しています。
- 評価計画に当たっては、どの時間に何を評価するかを整理しましょう。必ずしも毎時間の評価を記録に残すわけではありませんので、内容や時間のまとまりで計画することが大切です。



□実際の学習評価例

【思考・判断・表現②】については、生徒が、表現の効果と物語の展開を結び付けて考えをまとめている姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、ワークシートの記述から評価することとした。

STEP 5

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、具体的な生徒の姿を想定します。

POINT

- 生徒の「おおむね満足できる」状況(B)を想定して、あらかじめ教師が書いてみるのが大切です。そうすることで、指導と評価のポイントが明確になります。
- 「努力を要する」状況(C)となってしまう生徒には、具体的な支援が必要です。どのようなつまずきが考えられるかを想定して、支援の方策を計画しておきましょう。



Tさん



「一人の少女」の登場による「勇者はひどく赤面した。」という表現は、冒頭の「メロスは激怒した。」と対照的で、様々な苦難を乗り越えながら走りぬいたメロスの行動により、怒りや悲しみのあふれる町が平和な状態へ変容したことを強調する効果がある。

結末の描写に着目し、「メロス」の行動や町の変容と結び付けながら、表現の効果を捉えている。

このことから、表現の効果と物語の展開を結び付けて考えをまとめている」と捉え、「**おおむね満足できる**」状況(B)とした。

Nさん



「赤く大きい夕日」という情景描写によって、セリヌティウスを助けるために最後まであきらめずに走っているメロスの「正義感」がさらに強調されている。

情景描写について触れてはいるが、物語の展開と結び付けて効果を捉えていないことから、「**努力を要する**」状況(C)とした。

そこで、**赤**で表現されている他の描写にも着目させ、「赤」が物語にどのような印象を与えているか考えさせるようにした。

中学校社会

指導のポイント

単元を見通した授業の構想

単元を見通して、社会的な見方・考え方を働かせながら、「見通しと振り返り」を大切にしたい問題解決的な学習を展開します。

評価のポイント

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、生徒一人ひとりの学習状況を把握することが大切です。教師はそのうえで、生徒を支援します。

1 社会科における内容のまとめ

中学校社会科各分野では、学習指導要領の各「中項目」をもって「内容のまとめ」とすることと整理されました。「内容のまとめごとの評価規準(例)」を基に「単元の評価規準」を作成します。

【地理的分野の事例】

「内容のまとめごとの評価規準」(例) から設定した単元の評価規準(例)

[C(3)「日本の諸地域」、小項目「中国・四国地方」]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかに区分された日本のそれぞれの地域(中国・四国地方)について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・①から⑤までの考察の仕方(人口や都市・村落を中核とした考察の仕方)で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域(中国・四国地方)において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件(人口や都市・村落を中核に設定した事象の成立条件)を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付け多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域(中国・四国地方)について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

POINT

○「内容のまとめ」と「単元」の大小関係に着目した評価規準の作成については、参考資料 P.37~42 を参照してください。



2 3観点の評価規準設定上の留意事項

知識・技能

- 知識については、社会的な事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得するように学習を設計します。
- 技能については、「中学校学習指導要領解説 社会編 P.186~187」に示されている「社会的な事象等について調べまとめる技能」を踏まえて学習を設計します。
- 単元の目標及びその評価規準において、細かな事象を羅列して、その習得のみを求めないようします。

思考・判断・表現

- 各単元において、それぞれの「見方・考え方」を踏まえ、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定します。
- 単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握しその解決に向けて構想したりする学習展開を意識します。

主体的に学習に取り組む態度

- 予想や学習の見通しを立てたり(粘り強い取組)、学習を振り返ったり見直したり(自己調整)しようとする側面を評価します。
- 社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要であることを踏まえ、ある程度長い区切りの中で評価していくことも考慮します。
- 「生徒が見通しを立てる機会を設けること」「学習を振り返る機会を設けること」「教師や他の生徒による評価を伝えること」を大切にします。

3 単元及び本時における学習評価の進め方

事例(地理的分野) C(3) 日本の諸地域 【評価場面の精選 ~重点化と系統化~】

□ 単元の評価規準(再掲)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかに区分された日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付け多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

POINT【系統化】
○小項目(各地方)の学習が進むにつれ、同じ観点の評価規準でも求める水準が高まっていきます。

□ 単元の評価計画例<川崎市の学校の場合 全32時間>

地域<「考察の仕方」の中核事象>	評価の観点			重点化、系統化により精選した評価規準例 ※重点化 ○:評定に用いる評価 ●:学習改善につなげる評価 ※系統化 実線:技能 波線:思考 二重線:態度
	知	思	態	
地域区分			●	●日本の諸地域の学習に見通しをもって取り組もうとしている。
	知○ 技●			○冷涼で広大な自然を開発してきた北海道地方の地域的特色を理解している。 ●教師によって提示された資料基に、そこから読み取った情報を適切に文章化している。
中部地方<産業>	知○ 技●			○農工業の盛んな中部地方の地域的特色を理解している。 ●教師によって提示された資料を基に、そこから読み取った北陸・中央高地・東海の3地域それぞれの情報を適切に文章化している。
九州地方<自然環境>	知○	●		○台風がよく通り多くの火山を抱える九州地方の地域的特色を理解している。 ●自然災害を防いだり減らしたりする工夫や、自然を生かした産業の工夫など、人々の生活と自然との関わりを損害と恩恵の両面から捉えて、文章でまとめている。
中国・四国地方<人口や都市・村落>	知○		○	○人口減少、人口偏が見られる中国・四国地方の地域的特色を理解している。 ○都市部と山間部や離島における地域づくりの取組を、それぞれの地域性の違いから捉えて、ウエビング図やヤベン図を用いてまとめている。
東北地方<交通や通信>	知○ 技○			○格子状に交通網が整備されている東北地方の地域的特色を理解している。 ○教師によって提示された資料を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。
近畿地方<産業>	知○		○	○環境を保全し、観光産業の育成を図る近畿地方の地域的特色を理解している。 ○町並み保全の理由を、日本の古都としての歴史的背景や観光資源としての側面を踏まえ「環境の保全と産業振興の両立」の視点から考えたことを、図や文章を用いてまとめている。
関東地方<既習の考察の仕方を生かして>	知○ 技○		○	○人口や産業が集中している関東地方の地域的特色を理解している。 ○生徒自身が収集した情報を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。 ○東京への一極集中を、人口や産業施設などのハードや、情報や管理機能などのソフトの両面から捉えるとともに、一極集中によるメリットとデメリットの両側面を踏まえ、「持続可能な地域づくり」の視点から考えたことを、図や文章を用いてまとめている。 ○日本の諸地域学習のまとめとなる関東地方の学習を経て、地誌学習に粘り強く取り組むとともに、自己の学習を振り返り、「地域の在り方の学習」につなごうとしている。

系統化

技能
思考・判断・表現

表現方法の工夫
考察の度合いの深まり
等

POINT【重点化】
○各地方それぞれに三観点全ての評価場面を設定するのではなく、ある程度長い区切り(七地方)を通して、バランスよく評価場面を設定しています。



「知識・技能」
・「技能」は単元前半で「学習改善につながる評価」(●)を行い、重点化を図っています。
・「知識」は各地方固有の地域的特色を理解するため、各地方で「評定に用いる評価」(○)を行っています。

「思考・判断・表現」
・単元前半の各地方で学習した視点を生かして、単元後半の各地方の地域づくりにつなげて考えることを期待しています。
・後半の三つの小単元で、「評定に用いる評価」(○)を行い、重点化を図っています。

「主体的に学習に取り組む態度」
・単元の冒頭で、学習に見通しをもって取り組めるよう「学習改善につながる評価」(●)を行っています。
・単元の終末で、主体的に課題を追究しようとしているかを見取り、単元を通じた変容を基に「評定に用いる評価」(○)を行っています。

中社

中学校数学

指導のポイント

「どのような数学的な見方・考え方を働かせて」、「どのような数学的活動を通して」、「どのような数学的に考える資質・能力を育成するのか」を明確にして単元の指導と評価の計画を構想しましょう。

目標の「3M」

評価のポイント

「指導に生かす評価」では、「おおむね満足できる」状況を具体的に想定し、「努力を要する」状況と考えられる生徒に対する指導の手立てを計画しておくことが重要です。「記録に残す評価」では、これらの指導を積み重ねた結果、生徒の資質・能力がどう高まったのを見取ることができる評価方法の工夫が重要です。

評価は次の指導へのステップ

1 観点別評価の留意事項

知識・技能

数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているかどうかについて評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかについて評価します。

ペーパーテストを用いて評価を行う際には、**事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランス**に配慮するなどの工夫が大切です。また、**机間指導等を通じて捉えた生徒の学習への取組の様子、発言やつぶやきの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する行動観察など、多様な方法を適切に取り入れていくことが大切です。**

思考・判断・表現

数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているかどうかについて評価します。

「思考・判断・表現」を評価するために、教師は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じ、**生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計する必要があります。**

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、**論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動**を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの工夫が考えられます。

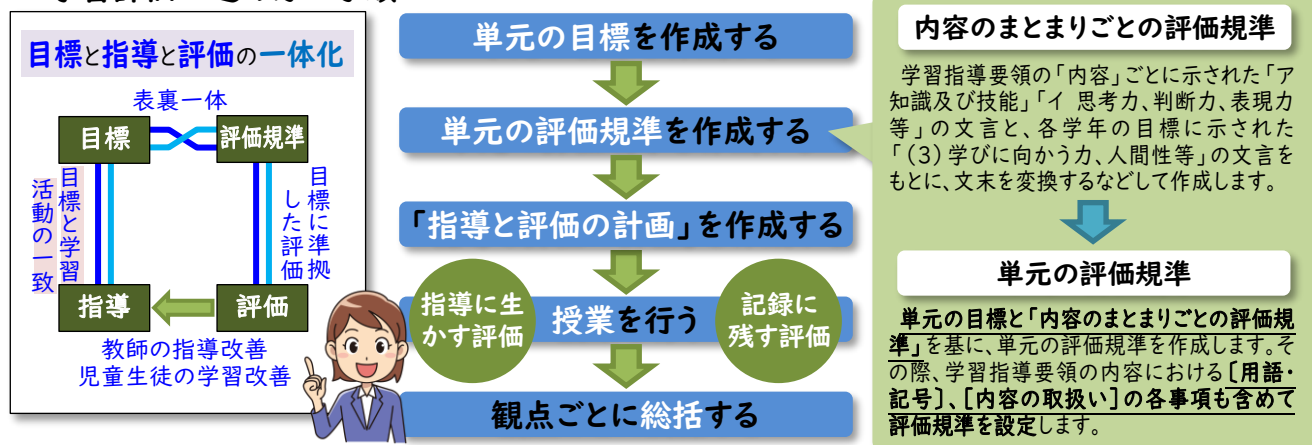
主体的に学習に取り組む態度

数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を身に付けているかどうかについて評価します。

この観点のみを取り出して、例えば挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、その形式的態度を評価することは適当ではなく、**他の観点に関わる生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要です。**また、**学習活動を通して身に付けた態度を評価するため、単元や小単元等の導入で評価したり、単一の授業の冒頭で評価したりして記録に残すことは適切ではありません。**

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。また、学習を振り返って「**わかったこと・大切な考え方など**」「**まだはつきりしないこと・知りたいこと**」などを記述させ、その内容から学習状況を把握し、**各生徒への指導に生かしたり以降の指導展開に生かしたりしていくとともに、必要に応じて総括するための資料として記録に残すことが考えられます。**

2 学習評価の進め方の手順



3 単元における指導と評価の進め方

事例 第1学年 A(3)「一元一次方程式」 単元名 一元一次方程式

(参考資料p51)

□単元の目標

- 一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 **知識及び技能**
- 文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。 **思考力、判断力、表現力等**
- 一元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。 **学びに向かう力、人間性等**

STEP 1 <単元の目標の設定>

資質・能力の3つの柱に沿って、当該学年の「学年目標」と「内容のまとまり」で示された内容をもとに設定します。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。	①等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。	①一元一次方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。
②簡単な一元一次方程式を解くことができる。	②一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	②一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
③等式の性質と移項の意味を理解している。	⇒知③は[用語・記号]から	③一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
④事象の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができる。	⇒知④は単元の目標(1)から	「内容のまとまりごとの評価規準」から3つに分割
⑤簡単な比例式を解くことができる。	⇒知⑤は[内容の取扱い]から	

STEP 2 <単元の評価規準の設定>

知①②、思①②は「内容のまとまりごとの評価規準」からそのまま位置付けています。知③は[用語・記号]、知④は単元の目標、知⑤は[内容の取扱い]に示されている内容から設定したものです。態①②③は「内容のまとまりごとの評価規準」から分割して設定しています。

STEP 3

ねらいに応じた評価項目と、記録に残す評価場面を精選し、指導と評価の計画を立てます。

「・」…指導に生かす評価を行う代表的な機会
「○」…総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会
※国研の参考資料では「記録」の欄を設けて○を示しています。

□指導と評価の計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
1	方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。	①まだ分かっていない数量を求める場面で、算数で学んだ内容を活用して解決する。 ②未知数を文字で表し、数量の関係を等式で表す。	・知① 行動観察		・態① 行動観察 振り返りシート
2		①方程式とその解の意味を知る。 ②方程式の中の文字に値を代入して、解であるかどうかを確かめる。	・知① 小テスト		
3	簡単な1元1次方程式を等式の性質や移項の考えを使って解くことができる。	①方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考える。 ②等式の性質を使って方程式を解く。	・知②③ 行動観察	・思① 行動観察	
4		①等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って移項の考えを見いだす。 ②移項の考えを使って方程式を解く。			
5		①かっこをふくむ方程式を解く。			
6		②係数に小数をふくむ方程式を解く。			
7	一元一次方程式の解き方について振り返り、自分の解き方を改善しようとする態度を養う。	①小単元末問題に取り組む。 ②評価問題に取り組む。	○知②③ 小テスト ノート		・態①② 行動観察 振り返りシート
8	具体的な場面の問題を一元一次方程式を利用して解決することができる。	①算数で学んだ方法と比較することなどを通して、具体的な問題を、方程式を利用して解決する方法や手順を考える。	・知① 行動観察		・態① 行動観察
9		①個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決する。	・知④ 行動観察 小テスト	・思② 行動観察	
10		①過不足に関する問題を、方程式を利用して解決する。			
11		①速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決する。 ②求めた解が問題に適しているかどうかを考える。 ③方程式を利用して問題を解決するときの手順をまとめる。		○思② 行動観察 小テスト	・態①② 行動観察
12	比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。	①比の値が等しいことを表す式を変形して、比例式の性質を見いだす。 ②比例式の性質を利用して、文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりする。	・知⑤ 行動観察	・思考② 行動観察	○態度 ①②③ 行動観察 振り返りシート
14	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	①小単元末問題に取り組む。 ②評価問題に取り組む。	○知④ 小テスト	○思①② 小テスト	
15	学習内容の定着を確認する。	①章末問題に取り組む。 ②単元テストに取り組む。	○知①～⑤ 単元テスト	○思①② 単元テスト	

知④の評価のPOINT

「知識・技能」の観点の評価については、「○問中、□問でできればおおむね満足」というように量的に評価するのではなく、問題を工夫するなどして質的に評価することが大切です。
第14時では、知④について次のような問題を用いて評価を行います。

折り紙を何人かの子どもに配ります。1人に5枚ずつ配ると9枚足りません。1人に3枚ずつ配ると15枚余ります。このときの子ども的人数と折り紙の枚数を求めなさい。

- 子ども的人数を x 人として、方程式をつくりなさい。
- (1) でつくった方程式は、どのような数量の関係を表していますか。
- (3) 折り紙の枚数を x 枚として次のような方程式をつくりなさい。この方程式はどのような数量の関係を表していますか。

$$\frac{x+9}{5} = \frac{x-15}{3}$$

【概ね満足できる状況(B)】

(1)の立式ができ、(2)の左辺と右辺が表している数量を答えることができる。

【十分満足できる状況(A)】

(1)の立式ができ、(2)と(3)の左辺と右辺が表している数量と数量の関係を正しく答えることができる。

第14時の評価問題を視野に、第8時～第11時において、指導に生かす評価を行いながら学習改善を図ることが大切です。



中学校理科

1 学習評価で大切にしたいこと

学習評価の基本的な考え方

学習評価は、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために重要です。
「教師の指導改善」と「児童の学習改善」

育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定

理科では、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を図ります。学習評価を進めるに当たり、まずは単元の目標や評価規準を作成し、評価場面や評価方法等を計画することが大切です。

2 理科における内容のまとめ

中学校理科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめ」をそのまま「大項目」と捉えることができます。

「内容のまとめ」を基に各分野の「評価の観点の趣旨」を踏まえ、「単元(中項目ごと)」の「評価規準」を作成し、実際の指導と評価を行うことが一般的です。

3 3観点を評価する上での留意点

知識・技能

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等の理解、また、観察、実験の基本操作の習得とともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方等を身に付けているかを見取ります。見取る内容に応じて、発言、記述内容、行動観察、パフォーマンステスト、ペーパーテスト等から状況を把握し、評価を行います。

思考・判断・表現

自然の事物・現象の中に問題を見だし、解決する方法を立案し、見通しをもって観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈し、探究の過程を振り返ったりする活動を通して、それぞれの学年で育成を目指す思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているか、授業内の発言やレポート、ペーパーテスト等から状況を把握し、評価を行います。(参照:学習指導要領解説P20 図4)

主体的に学習に取り組む態度

下記の3つの視点を踏まえ、単元の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ・粘り強さ(例:積極的に、進んで、粘り強く等)
- ・自らの学習を調整(例:他者と関わりながら、今までの学習を生かして、問題解決しようとしている等)
- ・理科を学ぶ意義や有用性(例:学んだことを学習や生活に生かそうとしている等)

第2学年1分野(4)「化学変化と原子・分子」

単元の評価規準の例

① 化学変化に関する事物・現象に、進んで関わり見通しをもったり、他者と関わりながら
粘り強さ 自らの学習を調整
振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

② 化学変化について、学んだことを学習や生活に生かそうしている。
理科を学ぶ意義や有用性

POINT

○評価規準の例①の生徒の「おおむね満足できる」状況(B)「十分満足できる」状況(A)を想定して、実際に書いてみましょう。どこをどのように指導して評価していくのが明確になります。

上記の単元の評価規準に沿って、生徒の発言や行動の観察等から評価します。また、授業外でも生徒の姿として表出していた場合は評価します。

□例①の「おおむね満足できる」状況(B)の記述例

マグネシウムは、自分の予想では二酸化炭素の中では燃えないと思っていたけど、燃えたのでびっくりした。
みんなの説明を聞いたら、反応する理由が分かった。マグネシウムはすごいと思った。

□例①の「十分満足できる」状況(A)の記述例

二酸化炭素中でのマグネシウムの反応後に、白色と黒色の物質が残っていた。グループ内で化学反応式を使って考えてみたら、白色は酸化マグネシウムで、黒色は炭素だという結論に至った。電気伝導性から、炭素であることを確かめてみたい。



4 単元における学習評価の進め方

事例 第2学年1分野(4)「化学変化と原子・分子」(全10時間計画)

□単元の目標

- (1) 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化、化学変化における酸化と還元、化学変化と熱を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること
- (2) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現すること。
- (3) 化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化、化学変化における酸化と還元、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・原則などを理解している。 ②科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して、観察、実験などを行っている。 ②化学変化について、観察、実験を行い、得られた結果を原子や分子と関連付けて分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	①化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって他者と関わりながら振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ②化学変化について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

□指導と評価の計画(10時間)

時	学習のねらい	重点	記録	評価規準・評価方法等
1	○鉄と硫黄を反応させる実験を行い、反応前後の性質の違いを比較し、別の物質が生成していることを見いだす。	思		【思考・判断・表現②】記述分析 ・反応前後の性質の違いを比較し、別の物質が生成していることを見いだして表現しているか確認する。
2	○化学変化を、原子や分子のモデルと関連付けて理解する。	知		【知識・技能①】記述分析 ・化学変化を、原子や分子のモデルと関連付けて理解しているか確認する。
3	○スチールウールを燃焼して、酸素と結びつき、別の物質が生成されるか確かめる実験を立案する。	思	○	【思考・判断・表現①】記述分析 ・実験結果を予想し、問題解決の見通しをもって実験を立案しているか評価する。
6	○酸化銅と炭素から銅と二酸化炭素が生成したことを、原子や分子のモデルを用いて表現する。	思	○	【思考・判断・表現②】記述分析 ・実験を基に、化学変化について原子や分子のモデルを用いて表現しているか評価する。
7	○二酸化炭素中でマグネシウムリボンが燃焼する現象を観察し、その変化を原子や分子のモデル等を用いて説明する。	態	○	【主体的に学習に取り組む態度①】観察、記述 ・二酸化炭素中でマグネシウムリボンが燃焼する現象について、進んで関わり見通しをもって、他者と関わりながら振り返ったりするなどして、原子や分子のモデル等を用いて説明しようとしているかを評価する。 【記録に残す評価】
8 9	○熱を取り出す実験を行い、化学反応には熱の出入りが伴うことを見いだす。 ○塩化アンモニウムと水酸化バリウムを反応させる実験を行い、温度変化を調べ、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだす。	思	○	【思考・判断・表現②】記述分析 ・実験結果を基に、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだして表現しているか評価する。
10	○化学変化に関する学習を振り返るとともに、概念的な知識を身に付けているかどうかを確認する。	態 知	○ ○	【主体的に学習に取り組む態度②】記述 ・単元の学習を振り返り、学習した内容とともに、日常生活や社会との関わりで新しい疑問をもっているかを評価する。 【知識・技能①】ペーパーテスト ・化学変化に関する概念的な知識を身に付けているか評価する。 【記録に残す評価】

POINT 1

単元を通して、育成すべき資質・能力を明確にして、具体的に評価規準を作成します。

○[知識・技能]、[思考・判断・表現]は、基本的に、指導事項の文末を「～している。」として示します。

○[主体的に学習に取り組む態度]は、いずれの単元においても、3つの視点を含めて評価規準を作成します。

POINT 2

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの場面での評価規準に基づいて評価するかを決定します。

POINT 3

記録に残す評価場面の精選とともに、日々の授業における指導に生かす評価と、それを踏まえた働きかけや指導改善が重要です。

○ここでは、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する例を考えてみましょう。

この計画には、「主体的に学習に取り組む態度」の指導に生かす評価を記載していませんが、単元を通してノートや学習シートの記述を確認し、指導に生かす評価を行います。記録に残す評価は、7・10 時間目の2時間に位置付けました。



POINT 4

「主体的に学習に取り組む態度」を評価するには、生徒の「粘り強さ」や「自らの学習を調整」する力を要する学習課題を設定することが重要です。

【記録に残す評価】では、生徒全員の学習状況を記録し、単元の総括的な評価の資料とします。

POINT 5

記録の欄に○が付いていない授業においても、教師が生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要です。

POINT 6 「生徒の学習改善へ向けた評価の実施」

生徒自身に学習の見通しをもたせるために、学習評価の方針を事前に生徒と共有したり、評価の結果をフィードバックする際に、どのように評価したかを改めて生徒と共有したりすることで、生徒の学習改善へつなげることが大切です。

中学校音楽

指導のポイント

日々の授業において、指導事項と共通事項の「明確化」、「焦点化」、「具体化」を図り、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成しましょう。

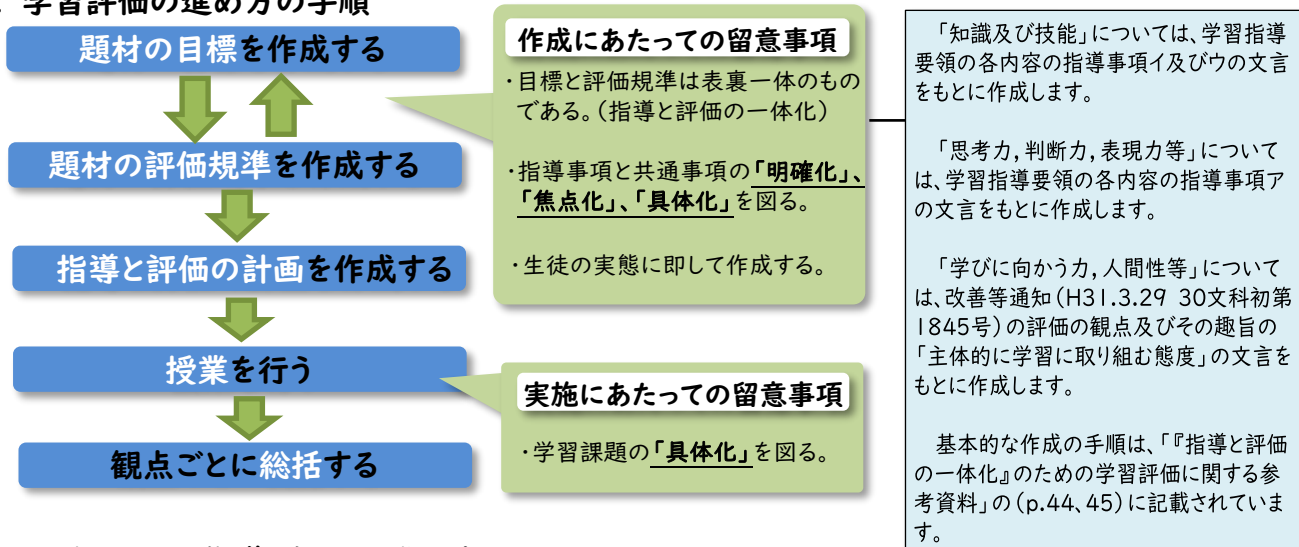
評価のポイント

指導事項と共通事項の「明確化」、「焦点化」、「具体化」を図ることにより、生徒が資質・能力を身に付けている具体の姿（記述や発言、技能の状況等）を見取りましょう。

1 学習指導要領の目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
内容	表現	イ	ウ	ア
	鑑賞	イ	—	ア
	[共通事項]	イ	—	ア

2 学習評価の進め方の手順



3 題材における指導と評価の進め方

【事例】 第1学年 鑑賞 「春(ヴィヴァルディ作曲)」
題材名 「『春』の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わおう」

□題材の目標

- (1) 「春」の曲想とそれを生み出す要素やリトルネッロ形式との関わりについて理解する。→ 指導事項イの(ア)
- (2) 「春」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。→ 指導事項アの(ア)、共通事項における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素「音色」、「強弱」
- (3) 「春」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わうことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に「春」の鑑賞の学習活動に取り組む(とともに、西洋の弦楽合奏に親しむ)。→ 題材名+評価の観点及びその趣旨

STEP 1

資質・能力の3つの柱に沿って作成します。どの指導事項と共通事項のどの部分を取り扱うのか、しっかりとつことが「**明確化**」です。

(3)は、前半に題材の学習で興味・関心をもたせたい事柄を記載し、後半は評価の観点及びその趣旨の「**主体的に学習に取り組む態度**」の文言をもとに設定しました。文末()内の感性や思いやりなどの観点別評価や評定には示しきれない部分を加えてもよいです。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①「春」の曲想とそれを生み出す音色、強弱との関わりについて理解している。</p> <p>知②「春」の曲想とリトルネッロ形式との関わりについて理解している。</p>	<p>「春」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>「春」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わうことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に「春」の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

STEP 2

「知識・技能」の観点について、鑑賞領域は、技能（「～身に付けている」）の評価規準を設定せず、知識（「～理解している」）のみとなります。

「知識」に関わる指導事項アの(ア)には複数の指導内容がありますが、本時ほどの指導内容について学習するかを「焦点化」します。例えば、本題材では2単位時間に分けて指導します。

STEP 3

絞り込んだ指導事項について、生徒や教師が、何を学習する（させる）か分かるように具体的にかみ砕くことが「具体化」です。

□指導と評価の計画

時	◆学習課題 ○学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	◆弦楽器の音色と強弱による場面の変化を感じ取ろう。	知① 〈学習シート〉	思 〈観察、学習シート〉	態
	○ソネットを伏せて「春」の各場面を聴かせ、弦楽器の音色と強弱による場面の変化をよりどころとして、どの場面がどのソネットなのかを予想する。場面とソネットを確認しつつ、知覚・感受したことを学習シートに記入する。			
2	◆音色、強弱、形式をよりどころとして感じ取った内容をもとに、曲のよさを説明しよう。	知② 〈学習シート〉	態 〈観察、学習シート〉	態
	○場面の变化とリトルネッロ形式の関わりについて学習する。また、形式及び前時に知覚・感受した内容をもとに、根拠をもって「春」のよさを言葉で説明するなどして聴き深める。			

POINT②

○態における評価場面の精選

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要である。

本題材では、第2時に該当するが、第1時も評価をしないということではない。

STEP 4

本時の学習課題についても「具体化」します。「具体化」を図ることで、本時のねらいを教師と生徒で共有することに繋がります。教師は、生徒に何を学ばせ、どんな力を身に付けさせるのかを具体的にもちましましょう。

また、学習課題に対して、分かったこと、できるようになったことを生徒自身に言わせたり書かせたりしましょう。

POINT①

OB と判断する状況例（例：思の場合）

聴き比べた場面について、音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたことについて、話したり書いたりしている。

【概ね満足できる記述例(B)】

この場面は、ヴァイオリンの強く鋭い音が少し明るめな感じを、また、コントラバスの力強い低音が暗い感じを表している。春の雷の様子が伝わってくる。

OA と判断する状況例（例：思の場合）

聴き比べた場面について、音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じて、それらの関わりについて考えた内容を話したり書いたりしている。

【十分満足できる記述例(A)】

この場面は、前後の場面に比べて音が強めである。ヴァイオリンの強めだが鋭く緊張感のある音がピカッと光る稲妻を、また、コントラバスの力強い重低音がゴロゴロ鳴っている雷鳴や黒い雲の様子を表している。この2つの楽器が合わさることで、「もうすぐ春が来るよ」と言うように雷が鳴り響く情景が伝わってくる。

※併せて、【努力を要する状況(C)】への手立てを考える。例えば、知覚・感受ができていない生徒に対しては、音色と強弱に視点をあてて友達と感じたことを交流させるなどの手立てが考えられる。

STEP 5

生徒が実現している姿（記述や発言、技能の状況等）を教師自身がもつことも大切です。

中学校美術

指導のポイント

表現と鑑賞を関連させ、発想や構想、鑑賞でも働く中心となる考え(造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え)を明確にして指導することが大切です。

評価のポイント

表現活動における造形的な視点についての理解や創造的に表す技能、発想や構想に関する資質・能力は、制作が進む中で徐々に形に現れるものであるため、制作途中と完成作品と両方から評価し、高まりを読み取ることが大切です。

1 美術科における資質・能力と内容のまとまりの関係

	知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識	技能		
感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	[共通事項]ア、イ	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)ア	—
目的や機能などを考えた表現	[共通事項]ア、イ	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)イ(ア) (イ) (ウ)	—
作品や美術文化などの鑑賞	[共通事項]ア、イ	—	「B鑑賞」(1)ア、イ	—

2 観点別評価のポイント

知識・技能

知識・技能(知識):表現及び鑑賞の活動を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価します。ここでの知識は、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが大切です。

知識・技能(技能):造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法を身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価します。

思考・判断・表現

思考・判断・表現(発想や構想):造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価します。

思考・判断・表現(鑑賞):造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価します。

主体的に学習に取り組む態度

生徒が「知識及び技能」、「思考力, 判断力, 表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度を評価します。例えば表現活動では、アイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、絵の具で色を試したり塗り重ねたりするような能動的な姿を捉えることが考えられます。また、鑑賞活動では、生徒が主体的に作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしていく姿を捉えることが考えられます。

2 学習評価の進め方について

1 題材の目標を作成する

- 以下を踏まえて作成
・学習指導要領の目標や内容 ・学習指導要領解説等
・児童の実態 ・前題材までの学習状況等

2 題材の評価規準を作成する

- 1, 2 を踏まえ、評価場面や評価方法を計画。
- どのような評価の資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えた時、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えた時。

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 3 に沿って観点別学習状況の評価を行い、**生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。**

授業を行う

4 観点ごとに総括する

- 集めた評価の資料や、それに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A, B, C)を行う。

3 指導と評価の例

事例 第1学年「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と鑑賞」
題材名「花の命を感じて」（参考資料 p.51）

題材の目標設定のPOINT

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう人間性等」は、学年の目標(3)を参考にします。題材に即してどのような内容が当てはまるのか書き換えたり削除したりします。

□題材の目標

- (1) ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。
 (〔共通事項〕ア、イ)
 ・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。
 (「A表現」(2))
- (2) ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
 (「A表現」(1)ア)
 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。
 (「B鑑賞」(1)ア)
- (3) ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく花の美しさや生命感などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、 <u>美しさや生命感</u> などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 <u>水彩絵の具の生かし方</u> などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	発 <u>花</u> を見つめ感じ取った <u>花や葉</u> の形や色彩の特徴や美しさ、 <u>生命感</u> などを基に主題を生み出し、 <u>画面全体と花や葉</u> との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく <u>花の美しさや生命感</u> などを基に <u>構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする</u> 表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく <u>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える</u> などの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

□指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等		
		知・技	思	態
1	「花」をテーマにした作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。	知 【ワークシート・発言の内容】		態表 【ワークシート・活動の様子】
2	興味をもった花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことや考えたことを言葉で書き表したりしながら、主題を生み出す。		発 【ワークシート】	態表 【ワークシート・活動の様子】
3	主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。		【アイデアスケッチ】 発	【アイデアスケッチ・活動の様子】 態表
4	形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、様々な水彩絵の具の表し方を試す。	技 【試作の作品】		態表 【試作の作品・活動の様子】
5	自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。	【制作途中の作品・活動の様子】 知・技		【制作途中の作品・活動の様子】 態表
6				
7	お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。	知 【ワークシート・発言の内容】	鑑 【発言の内容・ワークシート・活動の様子】	態鑑 【発言の内容・ワークシート・活動の様子】 態鑑
<授業外:題材が終了後>		知・技	鑑 発	

題材の評価基準の設定のPOINT

具体的な活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)。

□指導に生かす評価

生徒の学習の実現状況を見取り、個に応じた支援を行うなど、教師の指導の改善につなげるために行います。

□記録に残す評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用います。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになります。

知・技の評価は、完成作品やワークシートなどから再確認し、必要に応じて修正します。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】

鑑の評価は、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価します。

発の評価は、発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正します。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】

中学校保健体育

指導のポイント

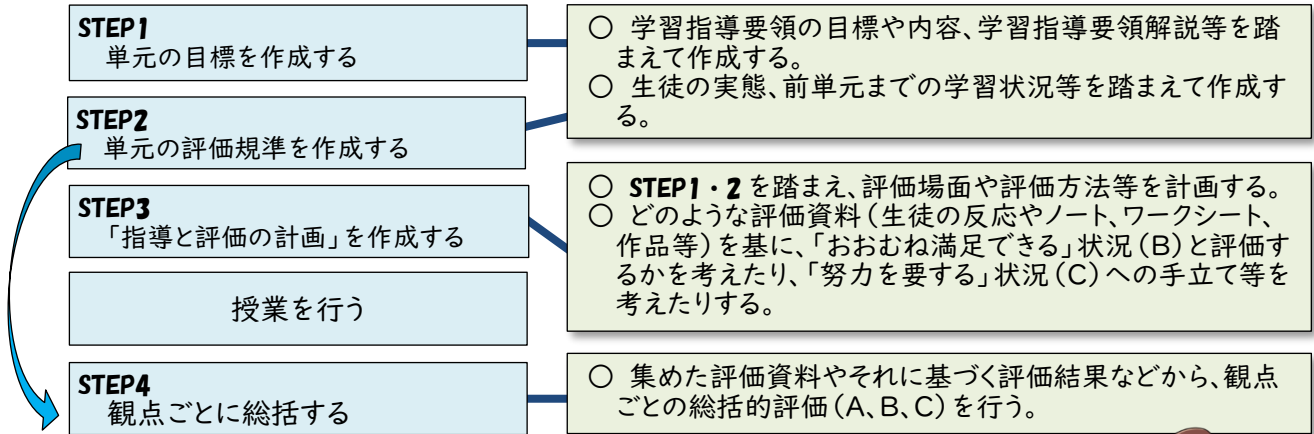
単元で取り上げる指導内容に基づいて、単元の目標を設定し、それを実現するために適した学習活動を位置付け、課題解決に向けた学習過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の動きや記述等があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか、体育分野・保健分野それぞれの具体的な生徒の姿を想定しておくことが大切です。

1 学習評価の進め方について

保健体育科においては、単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、以下のように進めることが考えられます。



2 単元の評価規準の作成例

(第1学年及び第2学年 C 陸上競技 短距離走・リレー、ハードル走)

手順1: 2年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する

例示等で示された2年間の指導事項について、実施時期や配当時間等を踏まえ、資質・能力の3つの柱をバランスよく配置する。

手順2: 学習指導要領解説例示等を基に、第1学年及び第2学年の内容のまとめり「C 陸上競技」における全ての「単元の評価規準」を設定する

第1学年及び第2学年の内容のまとめり「C 陸上競技」における全ての「単元の評価規準」を例示の文末を変えるなどして設定する。

- ・ 「知識」については、例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」あるいは「～について、学習した具体例を挙げている」として設定する。
- ・ 「技能」については、例示の文末を「～ができる」として設定する。
- ・ 「思考・判断・表現」については、例示の文末を「～している」として設定する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、意思や意欲を育てるという情意面の例示の文末を「～しようとしている」、健康・安全に関する例示の文末を「～している」として設定する。

POINT

体育分野においては、従前、「単元の評価規準」をもとに、さらに「学習活動に即した評価規準」を作成する事例を示してきましたが、本資料では、「学習活動に即した評価規準」を別途示さず、「単元の評価規準」として表記しています。

保健分野においては、「内容のまとめり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとめり」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定されます。

(例1)

「内容のまとめり」

→ 傷害の防止

「単元例」

→ 傷害の防止

(例2)

「内容のまとめり」

→ 心身の機能の発達と心の健康

「単元例」

→ 心身の機能の発達

→ 心の健康

手順3: 当該単元における「単元の評価規準」を設定する

手順1の2年間を見通した指導事項の配置と手順2の全ての単元の評価規準を基に、当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

3 単元における指導と評価の計画例

事例 第1学年及び第2学年「C 陸上競技」
単元名 陸上競技：短距離走・リレー、ハードル走

POINT

単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができ、他の単元で指導し、評価する部分については、()で示します。



単元の目標	知識及び技能	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。 ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせるなど、(長距離走では、ペースを守って走ること)、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができるようにする。											
	思考力, 判断力, 表現力等	動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力, 人間性等	(陸上競技に積極的に取り組むとともに)、(勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること)、(分担した役割を果たそうとすること)、(一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動・用具等の準備										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導し、評価する。 ・具体的な知識と汎用的知識を関連させて指導し、評価する。 ・互いに教え合う時間を確保するなど工夫する。 ・指導事項の精選を図ったり、ICTを効果的に活用したりするなどして、体を動かす機会を適切に確保する。 ・観点別学習状況の観点により、生徒一人一人の学習状況を把握し、生徒の学習を改善し、指導の成果や課題を明確にする。 	
	10	オ特性 エン ター テイン メント 健康 シ ョ ン 安 全	短距離走・リレー 滑らかな動き タイミングを合わせる 動きのポイント クラウチングスタート ピッチとストライド				ハードル走 リズムカルな走り 滑らかにハードルを越す 動きのポイント 遠くからの踏み切り 抜き足の動作				記 録 会		
	20		クラウチングスタート ピッチとストライド バトンの受渡し 課題や出来映えを伝える 責任				インターバルの走り 練習方法を選ぶ						
	30	試 し の 記 録 会	タイムの計測、記録										
	40		用具等の片付け・整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
50													
評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知	①	(②)	(②)	(②)		(②)	(②)	②			総 括 的 な 評 価	学習ノート
	技			①	②	③		④	⑤	⑥			観察
	思					①					②		学習ノート、観察
態		②				①					観察、学習ノート		
単元の評価規準	知	①陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技	①クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ②自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。 ③リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。 ④遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すことができる。 ⑤抜き足の膝を折りたたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。 ⑥インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。											
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。											
	態	①用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 ②健康・安全に留意している。											



POINT

指導と評価を一体的に進めるために、「指導を充実させた上で評価を行うこと」及び「観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要です。」

単元の評価規準を作成する時は、1時間につき1~2程度の評価の観点にするなど、無理のない計画を立てます。その際、評価をしない時間が出てくる場合もあります。また、「技能」及び「態度」における評価は、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設けます。「知識」及び「思考・判断・表現」における評価は、期間を置かず評価をします。

中保

中学校 技術・家庭科(技術分野)

指導のポイント

技術分野で育成することを目指す資質・能力は、単に何かをつくるという活動だけでは育成できません。学習指導要領解説に示されているような六つの学習過程を経た問題解決的な学習を通して育成していくことが大切です。

評価のポイント

生徒がどのような姿であれば「おおむね満足できる」状況か具体的に想定し、「努力を要する」状況と考えられる生徒に対する指導の手立てを計画しておくことが重要です。その上で、形成的評価により生徒の学習改善及び教師の指導改善を図りながら、総括的評価の場面を迎えることが大切です。

1 3 観点の評価する上での留意点

知識・技能

基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況进行评估します。技術に関係する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び、生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

思考・判断・表現

技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。技術分野の各内容は「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の三つの要素からなる学習過程を踏まえて項目が設定されていることから、各項目では、一連の学習過程における位置付けを踏まえた思考力等を評価します。

POINT

分野別の評価の観点の趣旨を基に、関係する「内容のまとまりごとの評価規準」の要素を加える等、題材の評価規準を設定します。



主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面、粘り強い取組みの中で自らの学習を調整しようとする側面に加え、これらの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度について評価します。

○ 評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて設定します。

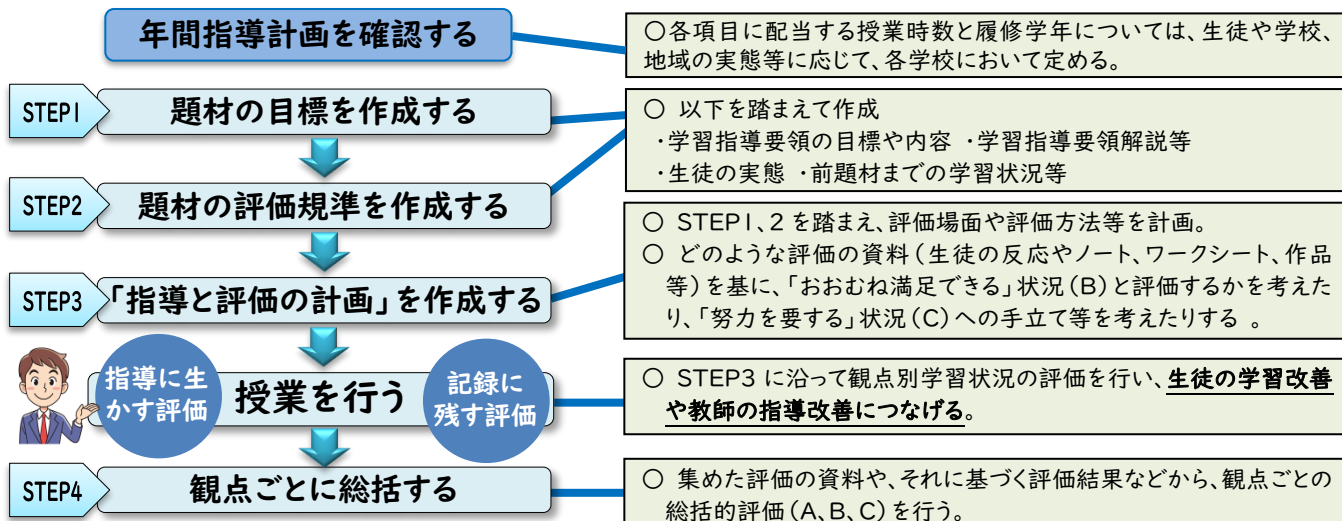
- Ⅰ **粘り強さ**(知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面)
- Ⅱ **自らの学習の調整**(Ⅰの中で自らの学習を調整しようとする側面)
- Ⅲ **Ⅰ、Ⅱの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度**

第1学年 内容「A 材料と加工の技術」(参考資料 p.47)

内容Aの項目(1)、(2)、(3)をまとめて一つの題材で指導する際の評価規準の例

題材の評価規準例	安全な生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり(Ⅰ)、振り返って改善したり(Ⅱ)して、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている(Ⅲ)。
----------	--

2 学習評価の進め方(参考資料 p.39)



3 題材の評価規準の作成のステップと評価のポイント(参考資料 p.57~63)

題材名 環境に優しい野菜づくりにチャレンジ!

□題材の目標

生物育成の技術の見方・考え方を働かせ、地域の自然環境へ配慮して野菜を栽培する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている生物育成の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、地域社会の中から生物育成の技術と環境に関わる問題を見いだし課題を設定し解決する力、よりよい地域社会の構築に向けて、適切かつ誠実に生物育成の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている生物育成の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切な栽培または飼育、検査等ができる技能を身に付けている。	生物育成の技術が地域の自然環境に及ぼす影響に関わる問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい地域社会の構築を目指して生物育成の技術の評価し、適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	よりよい地域社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。

□指導と評価の計画(表中の①~⑭について詳しくは参考資料p.58~59参照)

時	学習活動	評価規準・評価方法等
1 2 3	○生活や社会を支える生物育成の技術の例や、問題解決の工夫について調べる。	[知識・技能]①②ワークシート [思考・判断・表現]③工夫調べレポート生物育成の技術に込められた工夫の読み取りと最適化されてきたことの気付き
4 5	○地域社会において生物育成の技術を用いて解決したい問題を見つけ、課題を設定する。 ○設定した課題に基づき、育成環境の調節方法を構想して、育成計画を具体化する。	<問題を見いだす発問の例> 環境に優しい栽培技術で、社会の問題を解決しよう。 [思考・判断・表現] ⑤⑥育成計画表
6 ~ 12	○安全・適切に栽培・検査し、必要に応じて適切に対応する。 ○設定した課題の解決状況を評価するため作物の生育状況とLEDを点灯させた時間や消費した養液の量、成長の度合いなどのデータを記録する。	[知識・技能]⑦生徒の行動観察、育成環境の調節や作物管理の状況 [思考・判断・表現]⑧管理記録カード、育成環境の調節や作物管理の状況
13	○収穫の様子(品質や収穫量など)と、解決過程で収集したデータとを整理して、収穫レポートにまとめながら、問題解決の過程と結果を振り返る。	[思考・判断・表現]⑨収穫レポート、管理記録ワークシート(技術の評価等)
14	○ここまでの学習活動を踏まえ、技術の概念を理解する。 ○研究開発が進められている新しい生物育成の技術の優れた点や問題点を話し合う。	[知識・技能]⑫ワークシート生物育成の技術の役割や影響、最適化
15	○よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成の技術の在り方や将来展望について提言する。	[思考・判断・表現]⑬ワークシート(生物育成の技術の評価、適切な選択、管理・運用の在り方の提言)

□「おおむね満足できる」状況(B)の記述例

生徒のワークシートへの書き込み

「なるべく電気を使わずに育てようと考えていましたが、始めは曇りの日が多くてLED照明を長く点灯させていました。しかし、途中で目標を達成できないかもしれないと考えて、日光が当たりやすい場所に移動させて、LED照明を使う時間を短くしようと頑張りました。」

STEP 1

題材の目標は、解説の各内容の最初に示された各内容のねらいを授業時数や履修学年を踏まえて設定します。具体的には以下のア~ウについて限定したり広げたりして作成しましょう。

ア 問題の解決に必要なとなる知識及び技能

イ 問題を見いだす範囲

ウ 解決策を構想したり、技術の概念を理解したりする際の視点

STEP 2

評価の観点の趣旨を基に、関係する「内容のまとまりごとの評価規準(例)」に示された理解の対象の要素を加える。

・知識・技能の具体の追加

・問題を見いだす際の範囲や解決策を構想する際の視点を履修学年に合わせて追加または限定。

・課題を解決する力を履修学年に合わせて想定。

POINT

生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ、適切に評価するための計画が重要です。

POINT 粘り強い取組を行おうとしている側面の評価

○例えば、生活や社会で用いられている基礎的な技術の仕組みを調べ、その技術がどのような問題を解決しようとして、どのように工夫されているかを、工夫調べレポートにまとめさせ、その感想等の記述から、粘り強く技術を学ぼうとしている側面を中心に、「今までは興味なかったが…」「もっと知りたい」といった意欲を読み取り、評価します。

POINT 自らの学習を調整しようとする側面の評価

○ここでは、自らの学習を調整しようとする側面を中心に、育成計画を考える際に、計画の手本を参考に、自らの課題に応じて、新しい発想を取り入れながら、自分の力で問題解決に取り組めるよう、育成計画を調整しようとする態度を評価することにしています。内容のまとまりの全体を通して感じたことをまとめさせ、その感想等の記述から、自己調整を図ってきたかを読み取り、評価します。

中学校技術・家庭(家庭分野)

指導のポイント

生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を自分ごととしてとらえ、解決に向けた一連の学習活動を進めることで、課題を解決する力や主体的に取り組む姿勢をめざしましょう。

評価のポイント

「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化し、それぞれの評価規準に基づいて、どのような生徒の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておくことが大切です。

1 家庭分野における内容のまとまりごとの評価規準

家庭分野においては、学習指導要領に示す「第2 各分野の目標及び内容 2 内容」の項目を「内容のまとまり」としており、評価規準を作成する際の単位となります。内容のまとまりごとの評価規準は以下の3観点で設定します。

知識・技能

基本的に、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]について、その文末を「～について理解している。」「～について理解していると、適切にできる。」として、評価規準を作成します。

※「A 家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている。」として、評価規準を作成します。

思考・判断・表現

基本的に、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力・判断力・表現力]の指導事項について、その文末を分野の評価の観点の趣旨に基づき、「～について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成します。

POINT

〈思考・判断・表現〉について
教科の目標(2)に示されている学習過程に沿って、「問題を解決する力」が身に付いているかを評価することに留意しましょう。



主体的に学習に取り組む態度

基本的に、当該指導項目で扱う指導事項A及びBと分野の目標、分野別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。具体的には下記の三つの内容を全て含め、題材の目標や学習内容に応じて評価規準を設定します。

- ①粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)
- ②自らの学習を調整(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする側面)
- ③実践しようとする態度

文末を、「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成します。

評価規準の例(内容 C 消費生活・環境(2)消費者の権利と責任)

よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ①粘り強さ
②自らの学習を調整 ③実践しようとする態度

2 学習評価の進め方の手順

題材の目標を作成する

STEP1 題材の目標作成

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成します。
- 生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成します。

題材の評価規準を作成する

STEP2 題材の評価規準の作成

- 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成します。

「指導と評価の計画」を作成する

STEP3 「指導と評価の計画」作成

- 「おおむね満足できる」状況(B)の評価と「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えます。

授業を行う

STEP4 観点ごとの評価

- 評価資料やそれに基づく評価結果から、観点ごとの目標に準拠した評価を行います。
- 評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。

観点ごとに総括する

3 題材における指導と評価の例

事例 第2学年 題材名 健康・快適で持続可能な衣生活

□題材の目標

STEP1 題材の目標作成

- (1) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れ及び製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

□題材の評価規準

STEP2 題材の評価規準の作成

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに適切にできる。 ・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。	衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

□指導と評価の計画

STEP3 「指導と評価の計画」作成

時	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○健康・快適で持続可能な衣生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定することができる。	題材全体の課題を設定している	題材全体を貫く課題 ①・学習カード	①・ポートフォリオ ・学習カード ・行動観察
2	○衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択について理解するとともに、衣服の選択について考え、工夫することができる。	①・学習カード ※ペーパーテスト ②・学習カード	(課題1) ①・学習カード	課題1～3については、それぞれ問題を見だして課題を設定している
3				
4	○衣服の材料や汚れに応じた洗濯について理解し、適切にできるとともに、日常着の洗濯の仕方について考え、工夫することができる。	③・行動観察 ・相互評価	(課題2) ①・学習カード ②・学習カード ※ペーパーテスト ③・学習カード ④・学習カード	②・ポートフォリオ ・学習カード ・行動観察
5				
6	○衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解し、適切にできる。	④・練習布 ・確認テスト		③・ポートフォリオ
7				
8	○衣服の計画的な活用の必要性について理解することができる。	⑤・学習カード ⑥・製作計画 ・実践記録表 ・再利用作品	(課題3) ①・製作計画 ・実践記録表 ②・製作計画 ・実践記録表 ③・製作計画 ・実践記録表 ・再利用作品	①・ポートフォリオ
9				
10	○自分の生活を豊かにするための衣服等の再利用について問題を見だし、課題を設定することができる。	⑦・行動観察		②・ポートフォリオ ・製作計画 ・実践記録表
11				
12	○衣服等を再利用し、自分の生活を豊かにする物の製作計画について考え、工夫するとともに、製作することができる。			
13				
14	○衣服等を再利用した製作について振り返り評価したり、改善したりすることができる。		題材全体を貫く課題 ④・学習カード	③・ポートフォリオ

まつり縫いやスナップ付けなどは2回行い、6時間目を「指導に生かす評価」7時間目を「記録に残す評価」とする

これまでの学びを振り返り、よりよい衣生活の実現に向けた記述から評価を判断する

□実際の学習評価例

STEP4 観点ごとの評価

4・5時間目の衣服の手入れ（洗濯）におけるペーパーテストの一部 【思考・判断・表現②】



(問1) 次のような場合、あなたはどのような工夫をして洗濯を行いますか。
洗濯かごの中に、母の花柄のエプロン、父の紺のTシャツ、姉の羊毛のセーター、野球で汚れた弟の靴下、自分の綿のワイシャツ、バスタオルが入っています。あなたはどのような工夫をして洗濯をしますか。理由も答えなさい。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断する例

工夫点1 ■ 全部一緒に洗うのではなく、洗濯物を分けて洗剤や洗い方を区別して洗う。一緒に洗う素材によっては縮んだり、しわになったりするものがあるかもしれない。
工夫点2 ■ 弟の靴下は、汚れがひどく、洗濯機では汚れが落ちにくいので、手洗いする。

「十分満足できる」状況（A）と判断する例

工夫点1 ■ 全部一緒に洗うのではなく、素材によっては傷んだりするので、洗濯物を分けて洗剤や洗い方を変えて洗う。また、綿のワイシャツはしわにならないように、ネットに入れ脱水を短めにするか手洗いする。
工夫点2 ■ 弟の靴下は、汚れがひどく、他の洗濯物が汚れるから先に手洗いする。綿シャツの首回りの汚れは落ちにくいので、先に直接洗剤等をつけてもみ洗いしておく。

中家

中学校外国語

指導のポイント

生徒が「英語に触れる機会」を最大限に確保しましょう。また、コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を通じ実際に英語を使う中で気付きを促しながら、資質・能力を育成しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておきます。その上で、形成的評価により生徒の学習状況を的確に把握し、指導改善を図りながら、総括的評価の場面を迎えることが大切です。

目標に向けて充実した言語活動が行われれば、自ずと評価はついてきます。

1 外国語科における内容のまとめ

【目標】

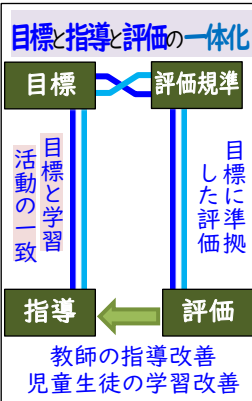
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
聞くこと	アイウ	
読むこと	アイウ	
話すこと〔やり取り〕	アイウ	
話すこと〔発表〕	アイウ	
書くこと	アイウ	

【評価】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞			
読			
話や			
話発			
書			

○教科書の単元は、教科書上の区切り（まとめ）です。
○必ずしも、「指導する内容のまとめ」＝「教科書の単元」とは限りません。
○複数単元を一つにして指導する、しなやかに限らず、長いスパンをかけて指導と評価を行うことが重要です。

2 学習評価の進め方について



STEP1 単元の目標を作成

- 以下を踏まえて作成
 - ・ 学習指導要領の目標や内容
 - ・ 学習指導要領解説等
 - ・ 児童の実態
 - ・ 前単元までの学習状況等

STEP2 単元の評価規準を作成

- STEP 1、2 を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画。
- どのような評価の資料（生徒の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

STEP3 「指導と評価の計画」を作成

- STEP3 に沿って観点別学習状況の、形成的評価を行い、**生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。**

授業

STEP4 観点ごとに総括

- 集めた評価の資料や、それに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

3 内容のまとめごとの評価規準

外国語科においては、各単元で取り扱う題材や、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

【例：話すこと〔やり取り〕ウの場合】

知識・技能

- <知識>
- ・ 「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
 - ・ 【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
 - ・ 言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」や「○○の意味や働きを」などの形で当てはめる。
- <技能>
- ・ 「【事柄・話題】について、聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。
 - ・ 【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、社会的な話題等が入る。

POINT…〈技能〉の評価について

指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたり伝え合うことができる状況を評価するのではなく、使用する言語材料の提示がない状況において、既習の言語材料を用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けている状況を評価することに留意しましょう。

思考・判断・表現

- ・ 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・ 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が基本的な形となる。
- ※ 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている様子については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて把握する。

4 指導と評価の例

事例 読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う
「話すこと[やり取り]」ウ

□1～3課の目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)について書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる。

□1～3課の評価規準 ※下記をもとに、単元の目標と評価規準を設定する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 言語材料 受け身や現在完了形などの特徴や決まりを理解している。</p> <p><技能> 事柄・話題 日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)について考えたことや感じたこと、その理由などを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。</p>	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。</p>
英語使用の正確さ	内容面の適切さ	思判表と一体的に評価

関係する領域別目標

「話すこと[やり取り]」

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

POINT

この例示のように、複数単元を通じてある領域の資質・能力を育成することも考えられます。

POINT

形成的評価により、生徒の学習状況を把握し、生徒が「できる」ように指導改善を図ることが重要です。

POINT

cの状況の生徒にどのような手立てを講じるかが重要です。

□指導と評価の計画(1課のみ抜粋;2～3課も同様)

時	■ねらい 【評価場面】 ◎:評価規準 <評価方法>	
1	■単元の目標を理解する。 ■教科書の対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。活動させているだけにしないよう十分注意する。
2	■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
3	■教科書の対話文(第1時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
4	■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことを伝え合う。	
5	■教科書の対話文とレポート(第3時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
6	■対話文や文章を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
7	【ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する】 ◎[知・技]自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、学習してきた文を正しく用いて伝え合う。<観察>	
8	【初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。】 ◎[知・技]自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、学習してきた文を正しく用いて伝え合う。<観察> ◎[思・判・表]初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。<観察> ◎[態]初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。 <観察・振り返りの記述内容>	
この後、2～3課を経て、パフォーマンステストを実施し、[知・技]、[思・判・表]、[態]を評価する。		

1～3課におけるA男の評価「話すこと[やり取り]」「知識・技能」:A 「思考・判断・表現」:B 「主体的に学習に取り組む態度」:B

□学期における評価(例)

学習が進むにつれ向上が見られることを評価した例

単元・領域→	1課	2課	3課	PT	話や	他領域	学期
知技	b	b	b	a	A	(A~C)	(A~C)
思判表	c	c	b	b	B	(A~C)	(A~C)
態	c	c	b	b	B	(A~C)	(A~C)

※PT=パフォーマンス・テスト

※「他領域」、「学期」の総括的評価についての詳細は割愛

新学習指導要領、新しい教科書においては、「帰納的な指導」が重視されます。その具体については、以下の動画で確認できます。

「文部科学省/mextchannel-Youtube」

日本の外国語教育はこう変わる! Q(約21分)

中学校の外国語教育はこう変わる!前編 Q(約11分)

中学校の外国語教育はこう変わる!後編 Q(約22分)

単元・領域→	1課	2課	3課	PT	話や	他領域	学期
知技	b	a	b	b	B	(A~C)	(A~C)
思判表	c	b	b	b	B	(A~C)	(A~C)
態	c	b	b	b	B	(A~C)	(A~C)

3課を通じて概ねbであることから、総じてBと評価した例

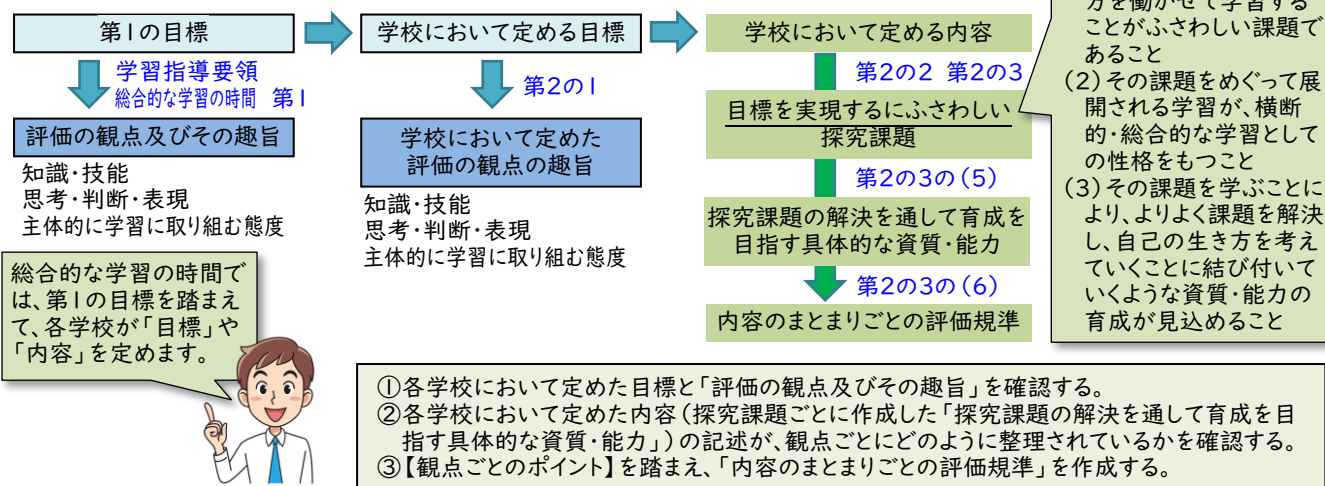
評価の方法、時期、基準等については校内の担当教師間において確認・改善することが重要です。

中学校 総合的な学習の時間

指導と評価のポイント

生徒が自ら課題を解決する過程を想定し、探究的な学習のプロセス「①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現」を意識して指導にあたりるとともに、目指す資質・能力が育成されるように、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返されるような学習活動のまとまりを計画することが大切です。

Ⅰ 内容のまとまりごとの評価規準の作成の手順



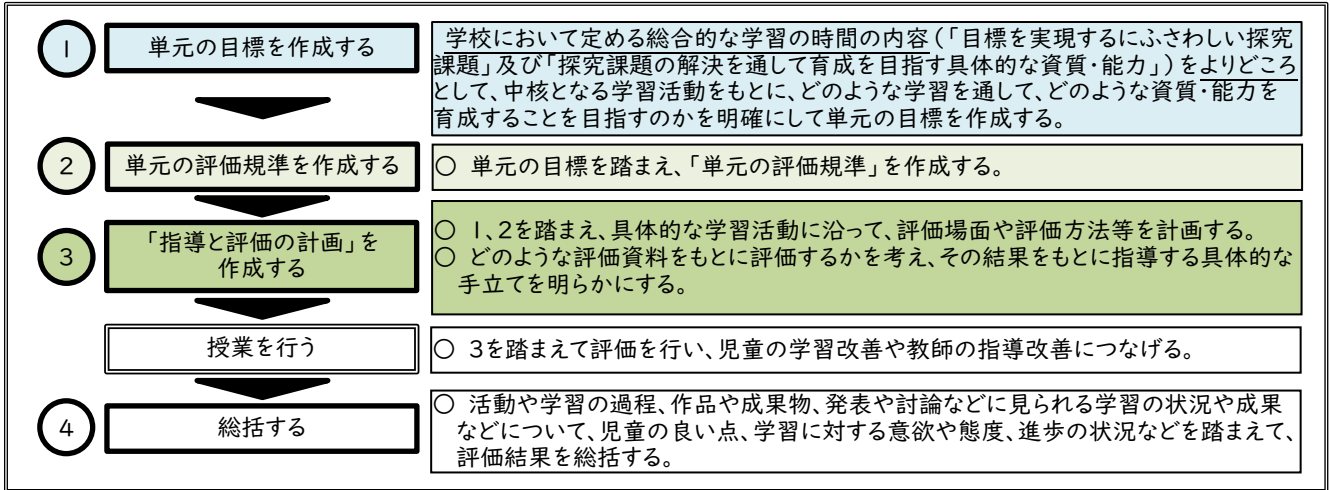
事例 単元名 未来の人も豊かな暮らしをするために ～エネルギー問題について考え、事前環境との共生を目指す～（第2学年）
内容のまとまり 「資源エネルギー」（全 50 時間）
（参考資料 p48）

内容のまとまり			
目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーを生み出す資源には限りがあること、自然との共生の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。（理解している。） 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。（実施している。） エネルギーの問題への理解は、自分の生活と環境や資源の関係について探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。（気付いている。） 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー問題への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見通しをもって計画を立てることができる。（立てている。） 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。（蓄積している。） 課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えることができる。（考えている。） 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。（表現している。） 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。（取り組もうとしている。） 自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとする。（学び合おうとしている。） 地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとする。（見付けようとしている。）

文末の下線部を（ ）のようすることで、「内容のまとまり」から「内容のまとまりごとの評価規準」を作成することができます。

単元の目標	
○様々な発電方法を調査したり電力消費量を減らすための活動に取り組んだりすることを通して、	学習対象や学習活動
○自分たちの暮らしは環境に負荷を与えたり、限りある資源の消費の上で成り立っていることを理解するとともに、	知識及び技能
○電力消費量を抑えるための実現可能な方法を探し求め、	思考力, 判断力, 表現力等
○未来の豊かな暮らしを守るために行動できるようにする。	学びに向かう力, 人間性等

2 学習評価の進め方の手順



単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
未来の人も豊かな暮らしをするために エネルギー問題について考え、 事前環境との共生を目指す	① エネルギーの問題について、資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること、生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。 ①概念的な知識の獲得	① 電気エネルギーを生み出すための発電について、何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。 ①課題の設定	① エネルギーに関する問題について、調べたことの中から伝えたいことを明確にして、新聞を作成しようとしている。 ①自己理解・他者理解
	② 地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ②自在に活用することが可能な技能の獲得	② 多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。 ②情報の収集	② 太陽光発電が増えることの是非について、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ②主体性・協働性
	③ エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。 ③探究的な学習のよさの理解	③ 自分でできる節電方法について、それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで、取り組むことの優先順位を決めている。 ③整理・分析	③ アンケートの結果から、これからの社会を視野に入れ、節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。 ③将来展望・社会参画
	各観点の評価規準を作成する際のポイントとなる視点	④ エネルギー問題の解決方法について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張している。 ④まとめ・表現	「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に、単元で行う学習活動に即して具体的に記述します。

指導と評価の計画

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 豊かな暮らしの背景にあるエネルギー問題について考えよう。(15)	・ エネルギーに関する問題を出し合い、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・ 発言 ・ 計画書
	・ 電気に焦点を絞り、様々な発電方法の仕組みや特徴について調べる。		②		・ ワークシート
	・ 社会見学を通して、化石エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電の意義について考え、学んだことを新聞にまとめる。				①
2 エネルギー問題の解決に向けて、自分たちができる取組について考えよう。(25)	・ 太陽光発電施設の見学や、太陽光発電の設置業者にインタビューを行い、太陽光発電のメリット・デメリットを議論する。			②	・ 振り返りカード
	・ 太陽光発電や再生可能エネルギーについて、身近な地域や実際の現場での調査を行い、情報を収集する。				
	・ エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き、自分たちができる効果的な節電方法について考える。(私の節電ベスト3)		③		・ 「私の節電ベスト3」シート
	・ 節電に対する意識を地域に広げ、多くの人に節電に取り組んでもらうために、地域が一斉に消灯する活動を企画し実行する。	②			・ 節電企画シート
3 取組を振り返り、エネルギー問題について自己の考えをまとめ、今後の関わり方について考えよう。(10)	・ 活動に対する地域アンケートを行い、集計結果をもとに、活動の有効性を見つめ直す。			③	・ 活動報告書
	・ 海外の電力事情(フランス・ドイツなど)を比べ、発電方法や電力生産の方向性について、自分の考えを主張文(結論と理由)としてまとめる。		④		・ 主張文
	・ 作成した主張文を使って、「これからの社会における発電や電力生産」についてのパネルディスカッションを行う。	①			・ 発言 ・ 主張文への追記
	・ 単元を通して学んだ記録(振り返りカード、私の節電ベスト3、主張文など)を振り返り、自己の成長や学習したことを基にして、「10年後の私」宛に手紙を書く。	③			・ 手紙

中学校 特別活動

指導のポイント

生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて、共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

評価のポイント

生徒の自己肯定感や生活や学習への意欲を高めるために、生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要です。活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

1 「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【初等中等教育局通知(H31.3.29)(改善等通知)別紙4より】

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。



*特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」)をもとに重点化を図った例

観点	互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい集団生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者と関係をつくろうとする態度
趣旨	個人と集団との関係性および集団活動の意義を理解し、社会生活におけるきまりやマナーに則った行動の仕方を身に付けている。	様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。	様々な集団に積極的に所属し、他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境のもとで互いの可能性を發揮できる関係を築こうとしている。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

各学校の実態に合わせて育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。



④ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「知識・技能」のポイント

話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。

「思考・判断・表現」のポイント

話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して、課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとします。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述します。各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。

2 特別活動の学習評価の工夫

生徒の自己肯定感や生活や学習への意欲を高めるために

☆生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。

☆指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで、「目指す児童の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況が見られた場合に指導要録に○を付ける。

生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿(参考資料 P54)

○目指す生徒の姿
担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】〈「キャリア・パスポート」、観察〉

学習指導案には、十分満足できる活動の状況を的確に見取るため、具体的に生徒の姿をいくつか想定し記述します。

3 観点別学習状況の評価の総括(参考資料 P58)

以下は、第 2 学年の学級活動(3)題材名「体験活動を学校生活につなげよう」における、補助簿の例です。総括で○を付ける際には、学校で共通理解を図っておくことが重要です。

生徒	知・技	思・判・表	主体的態度	担任メモ	総括
D	①		② ③	① 学ぶ意義、働く意義をよく理解している。(5/22) ② 人間関係形成には挨拶が大事であることを理解し、常に笑顔心がけようとしている。(6/11) ③ 進路に明確な目標をもち、課題解決に向けて日々努力しようとしている。(7/1)	○
B	①			① 職場体験活動を通じて働く意義を理解している。(5/10) a 6/1 役割について面談	
C	①	②	③	① 自分の役割を理解している。(6/17) ② 社会における自分の役割を考え、表明し、実行しようとしている。(7/4)	

担任メモの番号と連動させた数字で整理することにより、○の根拠が分かるようにします。

評価を指導に生かすため、場合によっては指導したことを記録することも考えられます。

4 中学校生徒指導要録における特別活動の記入例(参考資料 P41)

内容	観点	学年		
		1	2	3
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能 ○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	○	○	
生徒会活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		○	
学校行事	余白		○	

全学年共通した、各学校で定めた評価の観点を記入します。評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておきます。

・各活動、学校行事ごとに、「十分満足できる活動の状況にある」と判断される場合に○印を記入します。

・学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、左の記入例のように、より具体的に評価の観点を示すことが考えられます。

編集者一覧

学校教育課	主任指導主事	後 澤 大 世
	主任指導主事	福 岡 喜久子
	主任指導主事	小 松 順 一
	主任指導主事	柳 原 政 輝
	主任指導主事	佐々木 勝 義
	指導主事	佐 藤 宏 行
	指導主事	高 橋 健
保健体育課	主任指導主事	細 田 多 聞
	主任指導主事	小 野 甚 市
盛岡教育事務所	指導主事	菊 池 和 裕
総合教育センター	主任研修指導主事	千 田 満 代
	研修指導主事	福 田 勝 雄

監 修

学校教育課	総括課長	中 川 寛 敬
	首席指導主事兼義務教育課長	小野寺 哲 男

「指導と評価の一体化」に向けたハンドブック

小・中学校の学習評価に関する参考資料【岩手県版】

令和3年3月発行

岩手県教育委員会事務局学校教育課
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

※本ガイドブックは、岩手県教育委員会ホームページにも掲載しています。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/index.html>



「指導と評価の一体化」に向けたハンドブック

小・中学校の学習評価に関する参考資料【岩手県版】

～平成 29 年改訂学習指導要領を踏まえて～

